

シラバス参照

精神疾患とその治療('20)

Understanding and Treating Mental Disorders ('20)

主任講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

【講義概要】

精神医学の診断や治療の基本的な考え方を展望し、代表的な精神疾患の症状・経過・治療などについて解説するとともに、関連法規や社会制度の概略を紹介する。

【授業の目標】

精神疾患にはどのようなものがあり、それぞれどのような特徴をもっているか、疾患をどのように診断し治療するのか、治療法にはどのようなものがあるか、精神疾患の当事者をとりまく社会制度や援助のための社会資源はどのような現状にあるか、このような基本的な知識・理解を獲得することを目的とする。昨今の当事者活動の盛り上がりや、多職種連携の必要性についても十分理解したい。

【履修上の留意点】

医学一般について関心をもち、心身の健康について幅広く理解する姿勢が望まれる。

「今日のメンタルヘルス」や「精神看護学」、心理学領域の関連科目などを履修することを推奨する。この科目を履修した後に、大学院科目「精神医学特論(22)」などに進んでいくことが望ましい。

※この科目は、生活と福祉コース開設科目ですが、心理と教育コースで共用科目となっています。

※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

メディア	ラジオ
放送時間	2020年度[第2学期](日曜) 19:30~20:15
単位認定試験日/時間	2021/01/24 1時限 (09:15~10:05)
学部・院	教養学部
科目区分	('16カリ) コース科目 専門科目 生活と福祉
科目コード	1519271
ナンバリング	330
単位数	2単位
単位認定試験平均点	
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

各回のテーマと授業内容

第1回 精神疾患と精神医学

精神疾患とはどのようなものであるかを、身体疾患と比較しながら学ぶ。精神医学の意義や特徴について理解し、臨床心理学との関連について考える。また、統計データを通じて精神疾患や自殺の最近の動向を展望する。

【キーワード】

精神医学、精神疾患、自殺、臨床心理学、心の臨床

執筆担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

放送担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

第2回 精神疾患の診断と診断基準

精神疾患の診断の手順と、その際に用いられる診断基準について、今日の代表的な操作的診断基準であるDSMとICDを中心に学ぶ。診断は一方向的に宣告するものではなく、SDMの考え方に従って共有すべきものであることを理解する。

【キーワード】

操作的診断基準、DSM、ICD、外因・心因・内因、SDM

執筆担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

放送担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

第3回 精神疾患の治療

精神疾患の治療のあり方について基本的な考え方を学ぶ。特に薬物療法と精神療法という二本の柱に注目し、それぞれの療法の目的・有用性・有害作用・限界について知る。薬物療法と精神療法の相補的な関係や多職種連携の意義についても理解しておきたい。

【キーワード】

薬物療法、向精神薬、プラセボ効果、精神療法、認知行動療法

執筆担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

放送担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

第4回 統合失調症

入院患者の中では最多を占め、幻聴や被害妄想などの陽性症状や、自発性の低下などの陰性症状を呈しつつ進行する統合失調症について、症状・経過・治療などを学ぶ。ドーパミン仮説などの成因論や、近年注目されている当事者活動にも触れる。

【キーワード】

統合失調症、陽性症状と陰性症状、抗精神病薬、ドーパミン仮説、当事者活動

執筆担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

放送担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

第5回 うつ病と双極性障害

今日の代表的な精神疾患である気分の障害、すなわちうつ病と双極性障害について、その症状・経過・診断・治療について学ぶ。両者の異同について正しく理解したうえで、抗うつ薬や気分安定薬などによる薬物療法の概略と治療原則を知る。

【キーワード】

うつ病、双極性障害、抗うつ薬、気分安定薬、心理教育

執筆担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

放送担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

第6回 「うつ」をめぐるさまざまな話題

うつ病の理論と実践に関わるさまざまな話題、すなわち、うつ病概念の変遷とDSMの影響、うつ病の多様性と「新型」あるいは「現代型」の問題、精神療法のあり方、睡眠の重要性、抗うつ薬の多面的な効用などについて論じる。

【キーワード】

うつ病の多様性、適応障害、うつ病の小精神療法、睡眠衛生指導、常用量依存

執筆担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

放送担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

第7回 不安障害と強迫性障害

以前は神経症と呼ばれていた多彩な疾患群は、不安や恐怖を中心的なテーマとするものである。その中から不安障害(パニック障害、全般性不安障害)と強迫性障害をとりあげ、概念・症状・経過・治療について学ぶ。

【キーワード】

不安、恐怖、神経症、パニック障害、全般性不安障害、強迫性障害

執筆担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

放送担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

第8回 ストレスとストレス関連障害

ストレス概念は、現代人のメンタルヘルスを考えるうえでとりわけ重要である。強いストレスをもたらすできごとによる精神の変調として、適応障害、急性ストレス障害、心的外傷後ストレス障害、解離性障害、転換性障害などをとりあげ、その症状・経過・治療について学ぶ。

【キーワード】

適応障害、ストレス障害、PTSD、解離性障害、転換性障害

執筆担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

放送担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

第9回 身体疾患と精神疾患

精神医学における心身相関現象に注目し、双方向的に検討する。身体疾患に起因する精神疾患の例として症状精神疾患や器質性精神疾患について学ぶ。また、心理社会的要因に影響される身体疾患の病態、すなわち心身症について学ぶ。

【キーワード】

器質性精神障害、症状性精神障害、てんかん、心身症、ライフイベント・ストレス

執筆担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

放送担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

第10回 アルコールと薬物

わが国におけるアルコール関連問題の現状を知るとともに、アルコール依存症の症状・経過・治療について学び、断酒会活動の意義について理解する。また、覚醒剤のもたらす精神症状とその危険について学ぶ。

【キーワード】

アルコール関連問題、アルコール依存症、心理的依存と身体的依存、断酒会、覚醒剤、行為依存

執筆担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

放送担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

第11回 発達障害

発達障害の概念を理解し、自閉スペクトラム症やADHDなど主な発達障害の特徴と療育の原則を学ぶ。また発達期の諸問題に対する対応の原則を学ぶ。

【キーワード】

発達障害、環境調整、社会的障壁、自閉スペクトラム症、ADHD、共同作業、成功体験

執筆担当講師名: 広瀬 宏之(横須賀市療育相談センター所長)

放送担当講師名: 広瀬 宏之(横須賀市療育相談センター所長)

第12回 摂食障害とパーソナリティ障害

思春期・青年期に関連の深い精神疾患である摂食障害(神経性やせ症、神経性過食症、過食性障害)について学ぶ。また、パーソナリティ障害についてDSMの分類に沿って学び、境界性パーソナリティ障害などの概要を理解する。

【キーワード】

摂食障害、神経性やせ症、神経性過食症、パーソナリティ、境界性パーソナリティ障害

執筆担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

放送担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

第13回 老年期と精神疾患

老年期の精神疾患について認知症を中心に学ぶ。アルツハイマー型、前頭側頭型、レビー小体型など各種認知症の特徴を知るとともに、随伴症状とその対応原則を理解する。

【キーワード】

認知症、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、血管性認知症、前頭側頭認知症、せん妄、うつ病

執筆担当講師名: 白石 弘巳(なでしこメンタルクリニック、東洋大学名誉教授)

放送担当講師名: 白石 弘巳(なでしこメンタルクリニック、東洋大学名誉教授)

第14回 精神疾患をとりまく法と制度

精神疾患をとりまく法制度や社会資源について学ぶ。精神保健福祉法の沿革と内容、非自発的入院を含む入院手続き、障害者総合支援法、医療観察法、成年後見制度などについて学び、歴史的経緯と将来に向けての課題を検討する。

【キーワード】

精神保健福祉法、非自発的入院、障害者総合支援法、医療観察法、成年後見制度

執筆担当講師名: 白石 弘巳(なでしこメンタルクリニック、東洋大学名誉教授)

放送担当講師名: 白石 弘巳(なでしこメンタルクリニック、東洋大学名誉教授)

第15回 精神医学の過去・現在・未来

わが国と世界における精神医学の歴史を展望し、学習のまとめとする。科学技術は飛躍的に発展したが、精神医学は未解決の難問を多く抱えている。とりわけ精神障害者に対する人道的処遇の歴史は浅く、スティグマ克服が今後の課題であることを銘記したい。

【キーワード】

アニミズム、科学的精神医学、身体主義と心理主義、スティグマ、ケネディ教書

執筆担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

放送担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

戻る

シラバス参照

今日のメンタルヘルス(' 19)

－健康・医療心理学の実践的展開－

Current Issues in Mental Health ('19)

主任講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

【講義概要】

メンタルヘルス(=人の心の健康)を支える力は、ライフサイクルの中で養われ、人と人とのネットワークの中で維持されるものである。この科目では、そのような健康な力を育むメカニズムを学ぶとともに、破綻の結果として生じる精神疾患のあらましを知り、生活の場において生じるさまざまな問題の現状と対策を考えていく。メンタルヘルスの危機が叫ばれている今日、喫緊のテーマを扱うものである。

【授業の目標】

メンタルヘルスの領域における基礎知識を身につけ、さまざまな問題にとりくむための基本的な能力を養うことを目的とする。

【履修上の留意点】

概説的な科目であるので、特にあらかじめ履修しておくべき科目はないが、関心に応じて精神医学や臨床心理学など関連分野について学習することを勧めたい。

※この科目は、生活と福祉コース開設科目ですが、心理と教育コースで共用科目となっています。

※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

メディア	テレビ
放送時間	2020年度[第2学期](水曜) 07:30～08:15
単位認定試験日/時間	2021/01/27 8時限 (17:55～18:45)
学部・院	教養学部
科目区分	(' 16カリ) コース科目 専門科目 生活と福祉
科目コード	1519174
ナンバリング	320
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2019年度2学期(76点) 2019年度1学期(79.6点)
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

各回のテーマと授業内容

第1回 メンタルヘルスとは何だろうか

全体の導入として、メンタルヘルスという概念の意味と内容について検討する。疾病構造の変化や最近の統計データを確認し、WHOの健康の定義やそこに現れている包括的な健康観を学びながら、今日におけるメンタルヘルスの意義について考える。

【キーワード】

メンタルヘルス、包括的な健康観、精神疾患、身体的健康、健康なパーソナリティ

執筆担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

放送担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

第2回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)

周産期・乳児期・幼児期

周産期は妊娠・出産といった身体的変化に伴い、心理的にも不安定になりやすい時期である。この時期に生じる心の問題について、母親の症状、母子の関係性にみられる症状について紹介し、母親のメンタルヘルスを高めるための方法について考察する。

【キーワード】

妊娠、出産、アタッチメント、虐待、産後うつ

執筆担当講師名: 山口 創(桜美林大学教授)

放送担当講師名: 山口 創(桜美林大学教授)

第3回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)

児童期・思春期・青年期

子どもは家庭と学校で多くの時間を過ごしているため、子どものメンタルヘルスに大きな影響を及ぼしている要因として家庭と学校、そしてコミュニティがある。思春期・青年期は劇的な成長の時期であり、第二次性徴の発現などの身体的変化と、これに支えられた心理的離乳の作業が進行する。それぞれの時期におけるメンタルヘルスのあり方について検討する。

【キーワード】

対人関係、アイデンティティ、不登校、いじめ

執筆担当講師名: 山口 創(桜美林大学教授)

放送担当講師名: 山口 創(桜美林大学教授)

第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス(3)

成人期

今日の成人期はかつてと異なり、絶えず変化する社会環境に不断の再適応を迫られるストレスフルな時期である。男性と女性の生理的・心理的相違や社会的役割をめぐる葛藤が、それぞれの性に特有の問題をもたらすことも見逃せない。

【キーワード】

就労、結婚、ジェンダー、役割期待

執筆担当講師名: 山口 創(桜美林大学教授)
放送担当講師名: 山口 創(桜美林大学教授)

第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(4) 老年期と人生のしめくり

急速に高齢化社会を迎えている現代で、老年期のメンタルヘルスを保つことが重要な時代になってきている。高齢になるとさまざまな健康問題、喪失体験と向き合うことになる。高齢になると心にどのような変化があり、それに対応していくかを学ぶ。

【キーワード】
老年期、認知症、介護、抑うつ、健康、死

執筆担当講師名: 高橋 晶(筑波大学准教授)
放送担当講師名: 高橋 晶(筑波大学准教授)

第6回 ストレスの理論

ストレス理論の歴史と現状について学ぶ。セリエからラザルスを経て今日に至る歴史的な流れを展望した後、現時点での代表的な考え方を紹介し、メンタルヘルスにおけるストレス理論の重要性を論じる。

【キーワード】
ストレス、ストレッサー、セリエ、ラザルス

執筆担当講師名: 種市 康太郎(桜美林大学教授)
放送担当講師名: 種市 康太郎(桜美林大学教授)

第7回 職場とストレス

近年、職場における労働者のストレスがメンタルヘルス維持にとって重要な問題となっている。職場ストレスの現状について学ぶとともに対策を検討する。最後に、復職支援や障害者雇用の現状についても触れる。

【キーワード】
職場ストレス、安全配慮義務、労働災害、職場ストレスモデル、職場復帰支援

執筆担当講師名: 種市 康太郎(桜美林大学教授)
放送担当講師名: 種市 康太郎(桜美林大学教授)

第8回 ストレス・コーピングの実践

前回まで学んだ理論的基礎を踏まえ、自分自身のストレスに適切に対処していくための実践的な方略について学ぶ。自らのストレスの原因を整理すること、ストレス対処には幅広い方法があることを意識していることが大切である。

【キーワード】
ストレス・コーピング、認知的評価、ジョブ・クラフティング

執筆担当講師名: 種市 康太郎(桜美林大学教授)
放送担当講師名: 種市 康太郎(桜美林大学教授)

第9回 精神疾患(1) 心の病とはどんなものか

精神疾患はメンタルヘルスが破綻した結果として起きるものである。この回では精神疾患全般を広く見渡し、精神医療の現状や精神疾患の診断・治療・原因論などについて学ぶ。精神疾患の発症に対する遺伝や環境の影響についても正しく理解したい。

【キーワード】
精神疾患、DSM、遺伝と環境、薬物療法、精神療法

執筆担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)
放送担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

第10回 精神疾患(2) 脳の機能変調と精神疾患

脳の機能変調にもとづく精神疾患として、統合失調症と躁うつ病をとりあげ、その症状・発病機序・疫学・治療・経過などについて学ぶ。両者はかつて二大精神病と呼ばれた代表的な精神疾患であり、基本的なことがらについてよく理解しておきたい。

【キーワード】
統合失調症、うつ病、躁うつ病、気分障害、脳の機能変調

執筆担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)
放送担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

第11回 精神疾患(3) 不安とその周辺

不安は人間の存在にとって必要な心の動きである。しかし、これがあまりにも重篤で、長期にわたる場合には、日常生活に大きな支障をきたすことになる。重症化すると、日常生活が極端に制限されたり、他の精神疾患が合併したりすることもある。そこで、早期の段階で問題に気づいて、適切な対応を取ることが必要である。

【キーワード】

不安、恐怖、神経症、パニック障害、境界性パーソナリティ障害

執筆担当講師名:高橋 祥友(筑波大学教授)
放送担当講師名:高橋 祥友(筑波大学教授)

第12回 精神疾患(4) ストレスとストレス反応

ストレスに関連する精神疾患として、適応障害、急性ストレス障害(ASD)、外傷後ストレス障害(PTSD)などがあげられる。心身症や摂食障害もストレスと関係深い。これらの疾患についてストレスとの関連を学ぶ。

【キーワード】

ストレス、適応障害、PTSD、心身症、摂食障害

執筆担当講師名:高橋 晶(筑波大学准教授)
放送担当講師名:高橋 晶(筑波大学准教授)

第13回 精神疾患(5) アルコール依存症と薬物乱用

アルコール依存症や、覚醒剤その他の物質乱用は、今日の大きな健康問題となっており、その裾野は大きく広がっている。これら有害な物質に対する依存・乱用によって生じる症状や、そこから派生する問題などを広く展望する。

【キーワード】

アルコール関連問題、アルコール依存症、心理的依存、身体的依存、覚醒剤

執筆担当講師名:高橋 祥友(筑波大学教授)
放送担当講師名:高橋 祥友(筑波大学教授)

第14回 災害時とメンタルヘルス

巨大災害はわが国の歴史の中で反復生起するものであり、その備えは社会制度や人の意識の中に常に必要とされる。災害後の支援、復興には時間がかかり、急性期そして中・長期の精神的な支援は欠かせない。昨今、災害時のメンタルヘルスの重要性が問われており、現状と対策を考えたい。

【キーワード】

自然災害、人為的災害、被災者支援、支援者支援、DPAT

執筆担当講師名:高橋 晶(筑波大学准教授)
放送担当講師名:高橋 晶(筑波大学准教授)

第15回 自殺とその予防

わが国の年間自殺者数は約21,000人であり、交通事故死者数の約6倍となっている(2017年現在)。2006年には自殺対策基本法が成立し、自殺予防は社会全体の課題であると宣言された。自殺予防のために、その現状、予防のための基本概念、対応の原則について解説する。早期の段階で問題に気づき、適切な対応を取ることで、自殺予防の余地は十分に残されている。

【キーワード】

自殺、自殺予防、事前予防、危機対応、事後対応

執筆担当講師名:高橋 祥友(筑波大学教授)
放送担当講師名:高橋 祥友(筑波大学教授)

戻る

シラバス参照

死生学のフィールド('18)

Fields of Death Studies ('18)

主任講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)、山崎 浩司(信州大学准教授)

【講義概要】

現代日本社会で死と向きあい、自らの生を生ききるうえで必須の教養である死生学をテーマとする。6人の講師がそれぞれの専門性を踏まえ、出産・生殖、老い、病い、看護・介護、看取り、自死、戦争、死別悲嘆、弔い、いのちの教育など、死生にまつわる現場(フィールド)を幅広く取り上げて論じる。本科目は2014～2017年度に開講された「死生学入門」と相互補完的な関係にある。

【授業の目標】

さまざまな死生の現場で直面する問題について知識を習得するとともに、自らが直面する生き死にの問題について避けることなく取り組み、人生を切り開いていくための死生観や問題対応能力を養うことをめざす。

【履修上の留意点】

履修の条件や制約は特にないが、それぞれの関心に応じて、医療・看護・宗教・哲学・倫理学・社会学など関連分野の科目を広く学習することが望ましい。

※この科目は、2016年度以降のカリキュラムの方においては生活と福祉コース開設科目ですが、心理と教育コースで共用科目となっています。

※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

メディア	ラジオ
放送時間	2020年度[第2学期](月曜) 11:15～12:00
単位認定試験日/時限	2021/01/27 2時限 (10:25～11:15)
学部・院	教養学部
科目区分	('16カリ) コース科目 総合科目 生活と福祉
科目コード	1910027
ナンバリング	420
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2019年度2学期(84点) 2019年度1学期(86.9点)
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

各回のテーマと授業内容

第1回 死生学のフィールド

死生学は実践的・学際的・実存的な学問であり、現代社会のさまざまな死生の現場における課題に応じて、幅広いテーマをカバーしている。死生学は死生にまつわる課題に光をあてるだけでなく、現代社会に生まれ、生き、病み、老い、死にゆく一人の人間として、そうした課題とどう向きあうのかを考えさせ、行動を促していく学問であることを確認する。

【キーワード】

実践・学際・実存、死生観、臨床死生学、私的な死と公的な死、現場(フィールド)

執筆担当講師名: 山崎 浩司(信州大学准教授)

放送担当講師名: 山崎 浩司(信州大学准教授)

第2回 死生・宗教・スピリチュアリティ

宗教は人々の死生観に大きな影響を与えてきた。これに対する無神論・無宗教の立場も、それ自体ひとつの対抗的な死生観を提示するものと言える。ここでは、仏教とキリスト教をとりあげ、その死生観の特徴について見るとともに、現代のスピリチュアリティの流れについて概観する。

【キーワード】

宗教、無神論、仏教、キリスト教、スピリチュアリティ

執筆担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

放送担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

第3回 日本人の死生観

日本人の死生観は、時代と共にさまざまな変遷を遂げてきた。明治以降の混乱を経て第二次世界大戦の終結に至る過程では、一定の死生観が国家によって国民に押しつけられ、戦後にはその反動として死生観がほとんど語られない時期があった。そのような変遷と最近における死生観復権のきざしを概観する。

【キーワード】

祖霊崇拜、神道、国家神道、死の否認と躁的防衛、死生観の復権

執筆担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

放送担当講師名: 石丸 昌彦(放送大学教授)

第4回 マスメディアで死生について考える

マスメディアには死生に関する情報が溢れており、それらが読者や視聴者の死生観に作用しうる可能性がうかがえる。死生を題材にしたマスメディアは、いかに認識されるのか。いかにマスメディアを活用すれば、死生に関する考察を深められるのか。大衆メディアであるマンガを題材にした死生の考察の具体例を示し、その可能性と留意点を確認する。

【キーワード】

マスメディア、死のポルノグラフィ、死のガイドライン、マンガ、メディア・リテラシー

執筆担当講師名: 山崎 浩司(信州大学准教授)
 放送担当講師名: 山崎 浩司(信州大学准教授)

第5回 選択される命

墮胎・間引きの時代を経て人工妊娠中絶へ、子どもの命は時代を超えて選択され続けてきた。子どもの命が、どのように認識され選び取られてきたかについて考える。また、供養の対象とされなかった胎児が、供養の対象となった経緯に関して、水子供養の成立との関係で考察する。

【キーワード】

子どもの命の選択、胎児観、水子供養

執筆担当講師名: 鈴木 由利子(宮城学院女子大学非常勤講師)
 放送担当講師名: 鈴木 由利子(宮城学院女子大学非常勤講師)

第6回 流産・死産をめぐる胎児観

誕生が待たれる我が子が流産・死産した時、家族は強い悲嘆を経験するが、それは胎児に確かな命を認識している証でもある。多産多死時代の子どもの葬法を手掛かりとして、胎児や靈魂に関する認識の変遷を読み解き、悲嘆と癒しの共通点と相違点を考える。

【キーワード】

胎児生命、靈魂観、子どもの葬法

執筆担当講師名: 鈴木 由利子(宮城学院女子大学非常勤講師)
 放送担当講師名: 鈴木 由利子(宮城学院女子大学非常勤講師)

第7回 老いと病と死 —フレイルの知見を臨床に活かす

超高齢社会が進展する現代、老化・老衰の科学も進展している。加齢によって変化した身体には若年者とは異なる医療が必要となる。最新の医科学的な知見を踏まえ、高齢者に対する過少でも過剰でもない医療のあり方を医学的・倫理的に考察する。

【キーワード】

超高齢社会、フレイル、老衰、エイジズム

執筆担当講師名: 会田 薫子(東京大学特任教授)
 放送担当講師名: 会田 薫子(東京大学特任教授)

第8回 いのちの臨床倫理 —高齢者における人工的水分・栄養補給法の問題を題材に

高齢者が人生の最終段階において摂食嚥下困難となった場合に、胃ろう栄養法を含む人工的水分・栄養補給法を用いるかどうかという一般的な問題を題材に、「いのち」の尊厳を守る医療とケアについて、臨床倫理の考え方に沿って具体的に考察する。

【キーワード】

延命医療、リビングウィル、ACP、生命維持装置

執筆担当講師名: 会田 薫子(東京大学特任教授)
 放送担当講師名: 会田 薫子(東京大学特任教授)

第9回 エンドオブライフ・ケア —尊厳ある最期とは

最期のときまで本人らしく尊厳を保って生きることを支援するため、がん患者を対象とするホスピスが創設され、その精神がもとになって、疾患の種類や病期を問わない緩和ケアが発展してきた。しかし、なかには最期を自身でコントロールするために安楽死を望む人もいる。「尊厳ある最期」とは何か。その多義性を考察する。

【キーワード】

緩和ケア、ホスピス、尊厳死、安楽死

執筆担当講師名: 会田 薫子(東京大学特任教授)
 放送担当講師名: 会田 薫子(東京大学特任教授)

第10回 喪失と悲嘆

人生の中で私たちはさまざまなものを失い、そして嘆き悲しむ。喪失と悲嘆に関連する用語と概念を踏まえた上で、通常の悲嘆と複雑性悲嘆、悲嘆のプロセスについて解説するとともに、人間的成長という観点から死別体験を考える。

【キーワード】

喪失、悲嘆、死別、人間的成長

執筆担当講師名: 坂口 幸弘(関西学院大学教授)
 放送担当講師名: 坂口 幸弘(関西学院大学教授)

第11回 グリーフケア

死別による悲嘆を抱えた人々への支援を一般的に意味するグリーフケアについて、基本的な考え方や方法を整理するとともに、セルフヘルプ・グループや、ホスピス・緩和ケア、葬儀社での実践的な取り組みを紹介する。

【キーワード】

グリーフケア、遺族ケア、セルフヘルプ・グループ、ホスピス・緩和ケア、葬儀

執筆担当講師名:坂口 幸弘(関西学院大学教授)
放送担当講師名:坂口 幸弘(関西学院大学教授)

第12回 デス・エデュケーション

デス・エデュケーションのこれまでを概観し、そのうえで教育現場における必要性和有用性について考える。あわせて、いのちの教育、悲嘆教育を取り上げ、発達援助活動としてのデス・エデュケーションのこれからについて言及する。

【キーワード】
デス・エデュケーション、死生観、いのちの教育、悲嘆教育、発達援助活動

執筆担当講師名:鈴木 康明(東京福祉大学教授)
放送担当講師名:鈴木 康明(東京福祉大学教授)

第13回 自死遺族・遺児支援

我が国における深刻な自死の現状を踏まえ、社会的な課題としての自死遺族・遺児支援について考える。当事者が必要とする支援を検討し、それを行う際、私たちが留意しなければならないことは何かなどについて具体的に考える。

【キーワード】
自死遺族・遺児、関係存在、個性、死に別れの悲しみ、配慮的な支援

執筆担当講師名:鈴木 康明(東京福祉大学教授)
放送担当講師名:鈴木 康明(東京福祉大学教授)

第14回 戦争と死、喪失

戦争は大規模な人為的暴力の典型であり、はかり知れないほどの多くのいのちと、その他の身体的、精神的な喪失をもたらす。アウシュヴィッツに象徴されるホロコーストという出来事を軸に、暗闇から学ぶ意味、人間の善意に寄せる期待について考える。

【キーワード】
人為的暴力、いのちの共生、選別、ホロコースト、アウシュヴィッツ

執筆担当講師名:鈴木 康明(東京福祉大学教授)
放送担当講師名:鈴木 康明(東京福祉大学教授)

第15回 死生学とコミュニティ

死別体験者の支援を軸に、死生学とコミュニティの関係を論じる。喪失や悲しみなど人を苦しめ孤立させ得るものが、私たちの考え方や地域社会のあり方を変えることで、新たな人間関係に基づくコミュニティの創出につながる可能性を検討する。また、全15回の簡単なまとめも行う。

【キーワード】
死別体験、コミュニティ、協働、共感都市、社会死生学

執筆担当講師名:山崎 浩司(信州大学准教授)
放送担当講師名:山崎 浩司(信州大学准教授)

戻る

シラバス参照

看護学概説('16)

General Overview of Nursing ('16)

主任講師名:井出 訓(放送大学教授)、井上 洋士(順天堂大学大学院特任教授)

【講義概要】

学習者が、看護学の主たる概念や諸理論に関わる先進的知識を幅広く獲得し、実践の科学である看護学に対する理解を深めることを意図している。

【授業の目標】

1. 看護学の基本となる概念について理解する
2. 看護学における対象論を理解する
3. 看護学領域における倫理上の諸問題を理解する
4. 看護実践の基礎理論と展開方法概論を習得する

【履修上の留意点】

看護概説の範囲は広いので、学習に当たっては関連の参考書や副読本などを参考にしながら学習することが必要である。

※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

各回のテーマと授業内容

第1回 看護学原論

看護とは何か。看護の対象である人間を、生活過程において健康上の様々な欲求を持つ生命体として、また生物体を基盤に多面からなる統一体としてとらえていく。そして看護について、生命を守り育て健康を支援する、人間社会に不可欠な仕組み・働きとして展開する。重要な理論や概念をおさえながら、原理的理解を深めていく。

【キーワード】

看護、人間、健康、環境、生命、生活、欲求(ニーズ)の充足、ケアリング、看護の方法

執筆担当講師名:山崎 裕美子(姫路獨協大学教授)

放送担当講師名:山崎 裕美子(姫路獨協大学教授)

第2回 看護の歴史と看護理論

看護ケアの本質や援助の特質は時代とともに変わることはない。しかし、社会の変革や医療の発展とともに看護の果たす役割や機能は変化し、看護の高度化と専門分化が図られてきた。そうした看護の歴史や教育制度の変遷を概観するとともに、高度化と専門分化がはかられる上で示されてきた看護の理論を踏まえつつ、看護の実践・教育・研究の今後の方向を考える。

【キーワード】

看護の歴史の変遷、看護理論家達と様々な看護理論

執筆担当講師名:井出 訓(放送大学教授)

放送担当講師名:井出 訓(放送大学教授)

第3回 健康と看護

健康とは何か、また疾病とは何か。そして疾患に罹患せず健康を保つために看護はどのような役割を果たしているのかについて、健康生成、疾病生成という立場から、また健康と疾病に関するモデルを示しつつ解説する。また、様々な健康のレベルにある対象者に対する看護の役割、機能について考察を深めていく。

【キーワード】

疾病、健康、生活の質、well-being、予防、ヘルス・プロモーション、慢性疾患、医学モデル、生活モデル、急性期、侵襲

執筆担当講師名:井上 洋士(順天堂大学大学院特任教授)

放送担当講師名:井上 洋士(順天堂大学大学院特任教授)

第4回 看護学対象論(1)

ライフサイクルと看護

看護の対象、ライフサイクルの視点から取り上げる。胎児期を経て誕生し、子供から大人へと成長発達し社会を担い、老年期を生き、死を迎え遺族らのところに生きる人間の、生涯にわたる成長発達を段階的に捉える。また、次世代の育成にも焦点をあてる。ライフサイクルを通じて健康を支援する看護の役割を考える。

【キーワード】

ライフサイクル、ライフステージ、リプロダクション、生涯発達

執筆担当講師名:山崎 裕美子(姫路獨協大学教授)

放送担当講師名:山崎 裕美子(姫路獨協大学教授)

メディア	ラジオ
放送時間	2020年度[第2学期](金曜) 09:00~09:45
単位認定試験日/時間	2021/01/23 4時限 (13:15~14:05)
学部・院	教養学部
科目区分	('16カリ) コース科目 専門科目 生活と福祉
科目コード	1519034
ナンバリング	310
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2019年度2学期(74.3点) 2019年度1学期(79.6点)
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

第5回 看護学対象論(2) 心と看護

看護にとって、心とは何か。心に焦点をあててみると、どのような看護行為も看護者自身の心を用い、対象者の心のケアを意図していることがわかり、心の理解は不可欠である。個人として人格を持った人間の心の働きや発達を概観し、心へのアプローチを軸に看護実践を検討する。

【キーワード】

自我、ストレス対処(コーピング)、人間対人間、看護の心、ヒューマン・ケアリング

執筆担当講師名: 山崎 裕美子(姫路獨協大学教授)

放送担当講師名: 山崎 裕美子(姫路獨協大学教授)

第6回 看護学対象論(3) 行動と看護

保健行動とはなにか、その定義を明確にするとともに、保健行動、健康行動、また病氣行動、病感行動といった分類内容の整理を行いつつ、保健行動モデルについて解説を行う。また、保健行動のモデルを踏まえた看護の機能について考察を深める。

【キーワード】

病氣行動理論、保健行動理論

執筆担当講師名: 熊谷 たまき(大阪市立大学教授)

放送担当講師名: 熊谷 たまき(大阪市立大学教授)

第7回 看護学対象論(4) 社会・文化と看護

看護は、様々な文化や社会の中で生活するあらゆる年代の個人や家族、集団を対象とするため、人間が作り出す文化のあり方、また、そのなかで生きる文化的存在としての人間についての理解を深める。さらに、社会の仕組みの明確化と、そのなかで生きる社会的存在としての人間についての理解を深めていくことで、生涯を通して最期までその人らしく生を全うできるように援助する看護の役割を考察する。

【キーワード】

家族、組織、地域、社会規範と看護、文化と看護、システム理論

執筆担当講師名: 伊藤 祐紀子(長野県看護大学教授)

放送担当講師名: 伊藤 祐紀子(長野県看護大学教授)

第8回 セルフケア論

健康問題の解決と健康増進に向け、人はさまざまな社会資源を活用し、セルフケア能力を育み、実践している。慢性疾患患者のセルフケアを例に、セルフケアを遂行するために必要な要件と、それを支える看護活動について説明する。

【キーワード】

セルフケア、セルフケア不足理論、慢性疾患、自己効力感、支援的援助、指示的援助、学習的援助、相談的援助

執筆担当講師名: 井上 洋士(順天堂大学大学院特任教授)

放送担当講師名: 井上 洋士(順天堂大学大学院特任教授)

第9回 看護倫理学の基礎

倫理とは何かという基本的な意味、および専門職としての看護実践を導く判断の基盤であり道徳的な意思決定を行う時の行動の指針ともなる、倫理的原則について説明する。また日々の看護実践における倫理的問題を理解するための講義展開を行う。

【キーワード】

基本的人権と個人の尊厳、医の倫理、専門職と倫理、ケアと倫理、看護者の倫理綱領

執筆担当講師名: 熊谷 たまき(大阪市立大学教授)

放送担当講師名: 熊谷 たまき(大阪市立大学教授)

第10回 患者の権利と意思決定支援論

その時々に応じて揺れ動く患者の感情を受け止めながら、患者の意思決定を支えることが看護の役割の一つである。そのために看護者が理解しておくべき患者の権利、意思決定支援とは何か、また、そのために如何なる情報の提供と同意、納得を得ることが必要なかを考察する。

【キーワード】

患者の権利、医療における意思決定支援と看護、インフォームドコンセント・アセント・チョイス

執筆担当講師名: 井出 訓(放送大学教授)

放送担当講師名: 井出 訓(放送大学教授)

第11回 医療・看護における個人情報の保護

看護職であるかぎり、ある特定の個人を識別するにたる個人に関する情報に触れる機会を避けることはできない。看護の守秘義務とはなにか、また医療における個人情報の取り扱いと情報の開示、研究における個人情報の保護、など、看護実践における個人情報の保護について考える。

【キーワード】

個人情報とは、医療における個人情報と利用、診療情報とその開示、研究と個人情報

執筆担当講師名: 戸ヶ里 泰典(放送大学教授)
放送担当講師名: 戸ヶ里 泰典(放送大学教授)

第12回 人間関係援助論

看護は人と人との関わりの中で実現され、看護する人もされる人も関係性の中で変容する。看護する者とされるものとの間に生じる人間関係と力動の理解を深め、患者と共にあることの意味、看護における援助関係の構築や展開に関する看護技術も含め、関わりの看護について考察する。

【キーワード】

人間関係とは何か、関係性構築の方法、共感と傾聴、医療者と患者の協働

執筆担当講師名: 伊藤 祐紀子(長野県看護大学教授)
放送担当講師名: 伊藤 祐紀子(長野県看護大学教授)

第13回 看護過程と看護診断

看護過程は、看護情報に基づく問題解決のための分析的アプローチ法である。その中で、看護する人がどのような判断をし、何を問題として捉え、どのような活動を行っているのかについて解説する。

【キーワード】

看護過程・看護診断の概念、看護過程の構成要素、看護理論と看護過程

執筆担当講師名: 伊藤 祐紀子(長野県看護大学教授)
放送担当講師名: 伊藤 祐紀子(長野県看護大学教授)

第14回 ヘルスケアシステムと看護

保健医療福祉制度は、社会情勢の変化、少子高齢化、医療の高度化等によって、国、地域レベルでの急速な変革をとげている中で、総合的な視点から健康問題を捉え、生活に基盤をおいたケアシステムやサービスを提供する仕組みづくりと方法を解説する。さらに、そうした状況を背景に看護職に期待される役割や機能を考えるとともに、今後の展望と課題について考察する。

【キーワード】

わが国のヘルスケアシステムの特徴、医療施設・福祉施設・地域・在宅における看護師の果たす役割と位置付け

執筆担当講師名: 一戸 真子(埼玉学園大学教授)
放送担当講師名: 一戸 真子(埼玉学園大学教授)

第15回 看護と研究

看護学が学問である以上、研究活動は必須といえる。ここでは研究とは何かについて歴史的な変遷から掘り下げたうえで、看護学領域における研究のありかたと、研究目的、研究の方法について整理し、看護研究方法論の基礎を解説する。

【キーワード】

研究とは何か、研究上の問い、実験と観察、分析、研究デザイン、論文の書き方

執筆担当講師名: 戸ヶ里 泰典(放送大学教授)
放送担当講師名: 戸ヶ里 泰典(放送大学教授)

戻る

シラバス参照

老年看護学('19)

Gerontological Nursing('19)

主任講師名:井出 訓(放送大学教授)

【講義概要】

本科目は、老年期を生きることの意味と価値との理解を深め、生物学的な老化から高齢者施策を含む社会的な視点に立ちつつ高齢者を捉えながら、老いを生きる人々への看護を考えていく授業である。授業の構成としては、老年看護学が対象とする高齢者の生活と健康を、高齢期に体験される「老い」という視点から理解した上で、加齢に伴う心身の変化の特徴を、全人的な多角的観点から学習する。さらに、高齢者の権利擁護、老年期における生活機能の管理、老年期に特有の疾病・症候と看護支援、認知症高齢者へのケア、要介護高齢者へと家族への支援、最後に高齢者の終末期ケアについて学習する。

【授業の目標】

老年期を生きる高齢者の理解を深め、看護者として高齢者にかかわるために必要とされる知識、技術と理念の統合に向けた基盤づくりを図る。また、一般的な高齢者に対する固定観念にとらわれることなく、個性豊かな高齢者の姿を捉える視点を学習する。さらに、老年期における特徴的な心身の変化への理解を深めるとともに、生涯発達という視点から人間としての豊かな暮らしを成就していく老年期を生きる高齢者の姿を学習し、終末期も含めた高齢者の健康生活を支える看護実践にむけた基本的知識の習得を目的とする。

【履修上の留意点】

看護師国家試験の試験科目ともなる老年看護学の基本的事項に焦点を当てている。

※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

※本科目は、看護師資格取得に資する科目ですが、コース科目(うち他コース開設)において修得すべき最低単位数として卒業要件に算入されます。

メディア	ラジオ
放送時間	2020年度[第2学期](金曜) 15:45~16:30
単位認定試験日/時間	2021/01/23 3時間 (11:35~12:25)
学部・院	教養学部
科目区分	('16カリ) コース科目 専門科目
科目コード	1887378
ナンバリング	
単位数	2単位
単位認定試験平均点	
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	老年看護学('13)の単位修得者は履修不可

各回のテーマと授業内容

第1回 老年期を生きる高齢者の理解と老年看護の理念
老年看護の役割

老年看護学を学び始める入り口として、老いとはどのようなことを紐解きながら今日の社会で老年期を迎える人々への理解を深めていくとともに、高齢者の生活を支援する看護のありかたを解説する。また、老年看護における対象者の特性、ならびに老年看護の理念と目標について述べる。

【キーワード】

加齢と老い、発達、老年期、人生の統合、健康維持、アドボカシー

執筆担当講師名:井出 訓(放送大学教授)

放送担当講師名:井出 訓(放送大学教授)

第2回 高齢者施策と社会保障制度

日本の高齢者施策と社会保障制度の動向について、超高齢者の現況を踏まえた上で、地域共生社会と地域包括ケアシステム、介護保険法・制度、高齢者医療確保法、後期高齢者医療制度、オレンジプランを中心に概説する。さらに高齢者ケアにおいて欠かせない多職種連携と看護の役割について述べる。

【キーワード】

超高齢社会、地域共生社会、地域包括ケアシステム、介護保険法・制度、オレンジプラン、多職種連携

執筆担当講師名:松岡 千代(佛教大学教授)

放送担当講師名:松岡 千代(佛教大学教授)

第3回 加齢に伴う健康の変化と看護ケア

加齢に伴って変化する身体的、精神的、社会的機能の特徴と、高齢者の健康障害・疾病の特徴について、老年症候群、フレイル等の主要概念から概説する。さらに、高齢者の看護ケアに欠かせない高齢者総合機能評価(CGA)の視点とポイントについて述べる。

【キーワード】

加齢に伴う諸機能の変化、老年症候群、フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、高齢者総合機能評価(CGA)

執筆担当講師名:松岡 千代(佛教大学教授)

放送担当講師名:松岡 千代(佛教大学教授)

第4回 高齢者の生活を支える看護1
—生活アセスメント

高齢者が日常生活を営む上での生活リズムの特徴とリズム調整の意義とを説明し、リズムの乱れを生み出す行動のアセスメントや、生活場面からみえる病態変化の徴候について学習する。また、高齢者の生活リズムを整え、活動や参加を促進する看護支援について考察する。

【キーワード】

生活リズム、活動と休息、ADL、病態アセスメント

執筆担当講師名: 山田 正己(帝京科学大学講師)

放送担当講師名: 山田 正己(帝京科学大学講師)

**第5回 高齢者の生活を支える看護2
－食事**

高齢者に見られる特徴的な歯・口腔の変化や、咀嚼、摂食・嚥下のプロセスにおける障害の発生と影響要因を解説する。摂食嚥下、また栄養状態のアセスメントとともに、高齢者の誤嚥性肺炎の予防および食支援に関する看護ケアについて学習する。

【キーワード】

摂食嚥下障害、口腔・嚥下機能アセスメント、栄養状態、誤嚥性肺炎、オーラルマネジメント、食支援

執筆担当講師名: 山田 正己(帝京科学大学講師)

放送担当講師名: 山田 正己(帝京科学大学講師)

**第6回 高齢者の生活を支える看護3
－スキンケア**

高齢者に特徴的な皮膚の変化について解説し、皮膚のアセスメント、スキンケアおよびスキンケア、褥瘡や失禁関連皮膚炎への対策方法について述べる。

【キーワード】

スキンケア、褥瘡ケア、スキンケア、失禁関連皮膚炎

執筆担当講師名: 谷口 珠実(山梨大学教授)

放送担当講師名: 谷口 珠実(山梨大学教授)

**第7回 高齢者の生活を支える看護4
－排尿**

高齢者の排尿機能の加齢変化と下部尿路症状と下部尿路機能障害、その特徴と影響要因について解説し、排尿のアセスメントと看護の援助について学習する。

【キーワード】

下部尿路機能と加齢変化・排尿機能のアセスメント、排尿ケア、尿路感染の予防

執筆担当講師名: 谷口 珠実(山梨大学教授)

放送担当講師名: 谷口 珠実(山梨大学教授)

**第8回 高齢者の生活を支える看護5
－高齢者の排泄と性**

高齢者の排泄(排便)機能の障害と加齢に伴う排便の特徴について解説し、排便のアセスメントと看護の援助について学習する。また、高齢者の性にまつわる諸問題を、身体的、精神的、社会的、また文化的な側面から捉え直すことで、看護対象としての高齢者の性のあり方に関する理解を深め、ケアのあり方を考察する。

【キーワード】

排便機能と加齢変化・排便機能のアセスメント、排便ケア、ジェンダー、セクシャリティ

執筆担当講師名: 谷口 珠実(山梨大学教授)

放送担当講師名: 谷口 珠実(山梨大学教授)

**第9回 老年期に特有の疾病・症候と回復に向けた看護支援1
－脳神経・認知機能**

高齢者の脳神経系、認知機能系障害と影響要因について解説し、高齢者に特有の痛みや睡眠障害、せん妄状態などの身体的、精神的、社会的課題、ならびにアセスメント方法を説明する。また、疾病に伴う高齢者の生活障害にむけた看護支援について述べる。

【キーワード】

脳卒中、パーキンソン病、高次脳機能障害、せん妄

執筆担当講師名: 山川 みやえ(大阪大学准教授)

放送担当講師名: 山川 みやえ(大阪大学准教授)

**第10回 老年期に特有の疾病・症候と回復に向けた看護支援2
－リハビリテーション**

老年期におけるADL、IADLと生活意欲の捉え方について述べ、ADLの拡大、生活意欲の向上に向けた看護支援や評価のあり方について解説するとともに、高齢者の自律した生活をめざす。また、介護の重度化予防を踏まえた看護援助の意義について述べる。

【キーワード】

リハビリテーション、生活機能障害、ADL、IADL、FIM、生活意欲、うつ、介護予防

執筆担当講師名: 山川 みやえ(大阪大学准教授)

放送担当講師名: 山川 みやえ(大阪大学准教授)

**第11回 老年期に特有の疾病・症候と回復に向けた看護支援3
－薬物療法**

老化に伴う排泄機能の変化とともに、薬物の代謝に関する変化を解説する。また、薬剤間の相互作用や高齢期に特有の副作用の出現など、老年期における薬物治療に関する注意点を述べるとともに、看護が着目すべき点とケアのあり方について解説する。

【キーワード】

多剤併用、吸収、分布、代謝、排泄

執筆担当講師名:井出 訓(放送大学教授)

放送担当講師名:井出 訓(放送大学教授)

第12回 認知症高齢者への看護ケア

認知症とは何かという基本構造を解説し、認知症高齢者を中心としたケアのあり方について述べる。また、新オレンジプランなどの施策が変化し、地域包括ケアシステムが構築される中での看護師が果たす役割と担うべきケアとを確認しつつ、事例を交えながら認知症の人への先駆的ケアを紹介する。その上で、認知症高齢者のケアの基盤となる環境調整とコミュニケーションのあり方を説明し、虐待などの不適切なケアを防ぐためのかわり方を理解する。また、認知症の人の安定した暮らしの継続に向けたチームアプローチについて解説し、看護師の具体的な活動の様子を実例から紹介する。

【キーワード】

認知症ケア、中核症状と周辺症状、日常生活支援、地域包括ケア、新オレンジプラン、虐待防止、チームアプローチ

執筆担当講師名:山川 みやえ(大阪大学准教授)

放送担当講師名:山川 みやえ(大阪大学准教授)

第13回 高齢者、およびその家族への看護

高齢者が住み慣れた地域で暮らし続ける意義を解説するとともに、在宅生活を継続するために必要な家族および地域への看護活動について学習する。また、家族を含めた看護援助のプロセスを説明し、他職種との協働による支援のあり方や地域づくりについて考察する。

【キーワード】

在宅生活、家族、家族支援、他職種との協働、地域づくり

執筆担当講師名:山田 正己(帝京科学大学講師)

放送担当講師名:山田 正己(帝京科学大学講師)

第14回 高齢者とリスクマネジメントと権利擁護

高齢者の入院に伴うリスクと、災害時に遭遇するリスクを取り上げ、看護ケアのポイントについて概説する。また高齢者の尊厳を守る考え方としてパーソン・センタード・ケア、価値に基づく実践(VBP)について紹介し、高齢者虐待防止法、成年後見制度などの権利擁護の法制度・事業について述べる。

【キーワード】

医原性有害事象(医療事故)、災害、認知症、パーソン・センタード・ケア、価値に基づく実践(VBP)、権利擁護の制度

執筆担当講師名:松岡 千代(佛教大学教授)

放送担当講師名:松岡 千代(佛教大学教授)

第15回 終末期を支える看護

生まれ、成長し、老いて、死ぬ人の人生において、老年期という人生の終盤をいかに豊かに生きるか。人間の発達という視点から老いを考えつつ、発達の最終段階としての老年期を生きる高齢者の支援について、また看とる家族へのかかわりについて解説し、高齢者の終末期看護について考察する。

【キーワード】

老年期、発達、終末期ケア、リビングウィル、看とり

執筆担当講師名:井出 訓(放送大学教授)

放送担当講師名:井出 訓(放送大学教授)

戻る

シラバス参照

公衆衛生（'19）

Public Health（'19）

主任講師名：田城 孝雄（放送大学教授）、横山 和仁（国際医療福祉大学大学院教授、順天堂大学客員教授）

【講義概要】

公衆衛生学は、人々が関わる社会状況、生活環境、保健医療制度ならびに事業、社会保障および社会福祉など、医学・医療が社会と関わる領域の学問である。病気の人ひとりひとりを対象とするのではなく、人々の集まりとして社会を見ていく。在宅医療、地域保健、途上国などの現場で問題解決のために実際の活動を行うのも特徴である。

【授業の目標】

公衆衛生学は、組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的、精神的機能の増進をはかる科学であり技術である。15回の講義を通じて、公衆衛生学について理解することを目標とする。

【履修上の留意点】

「感染症と生体防御」および「健康長寿のためのスポーツロジー」も履修することが望ましい。
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

各回のテーマと授業内容

第1回 公衆衛生学の基礎
プライマリヘルスケア

公衆衛生学は、疾病を予防し、寿命を延ばし、身体的健康と様々な分野との組織的な活動を行う科学である。公衆衛生学の基礎として、プライマリヘルスケアについて解説する。プライマリヘルスケアは、社会に受け入れられる手順と技術に基づいたヘルスケアであり、ニーズ指向性、住民の主体的参加、資源の有効活用、協調・統合を原則とする。

【キーワード】

プライマリヘルスケア、住民参加、ニーズ指向性、健康

執筆担当講師名：横山 和仁（国際医療福祉大学大学院教授・順天堂大学客員教授）

放送担当講師名：横山 和仁（国際医療福祉大学大学院教授・順天堂大学客員教授）

第2回 健康と環境

ヒトの健康に影響を与える環境について講義する。環境は、人間を含む生物を取り巻く全てであり、ヒトの健康に影響を及ぼすと同時に、人間の活動により汚染される。これらの関係を理解するために、環境の変化に対する生体の反応、物理的・化学的・生物的環境要因の概要、公害・地球環境問題と環境管理について学ぶ。

【キーワード】

恒常性、量－影響関係、量－反応関係、環境汚染、地球環境問題

執筆担当講師名：篠原 厚子（清泉女子大学教授）

放送担当講師名：篠原 厚子（清泉女子大学教授）

第3回 疫学と健康指標

公衆衛生学の基本となる疫学について解説する。また各種の健康指標について解説する。公衆衛生学の基本となる疫学は人間の集団を対象として、疾病の頻度や発生を把握し、その要因を科学的に明らかにする学問である。疫学研究から予防対策を立てるために役立つ情報が得られる。疫学の基礎的な概念と考え方、予防医学の考え方を理解する。また、我が国の衛生関係統計資料の概要と主要な健康指標について解説する。

【キーワード】

疫病頻度、有病率、罹患率、症例対照研究、コホート研究、因果関係、衛生統計

執筆担当講師名：黒澤 美智子（順天堂大学准教授）

放送担当講師名：黒澤 美智子（順天堂大学准教授）

第4回 健康づくり

地域住民の健康づくりについて解説する。急増する生活習慣病、少子高齢化に伴う社会保障費の増大など様々な課題を背景に、近年、健康づくりに対する関心が急速に高まっている。この回では主として公衆衛生学の観点から、リスク要因と健康増進要因への対処、リスクの高い個人と一般集団への対処など、健康づくりの多様なアプローチを学び、健康づくりの政策や実践へ応用できる解決策を考える。

【キーワード】

疾病生成論、健康生成論、ハイリスクアプローチ、ポピュレーションアプローチ、ヘルスプロテクション、ヘルスプロモーション

メディア	ラジオ
放送時間	2020年度〔第2学期〕(水曜) 19:30～20:15
単位認定試験日／時間	2021/01/28 3時限 (11:35～12:25)
学部・院	教養学部
科目区分	(' 16カリ) コース科目 専門科目 生活と福祉
科目コード	1519166
ナンバリング	310
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2019年度2学期(92.3点) 2019年度1学期(90.5点)
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	公衆衛生(' 15)の単位修得者は履修不可

執筆担当講師名:湯浅 資之(順天堂大学教授)
放送担当講師名:湯浅 資之(順天堂大学教授)

第5回 日本の社会保障制度と医療制度

社会保障制度について説明し、各法律について解説する。社会保障制度は、個人の努力では対処できない事象に対して、社会全体で生活を保障する制度である。日本国憲法25条を根拠とする。我が国の医療制度について説明する。医療提供体制の解説と、医療保険制度、国民皆保険について講義する。

【キーワード】
社会保障制度、日本国憲法25条、医療提供体制、医療保険制度、国民皆保険

執筆担当講師名:田城 孝雄(放送大学教授)
放送担当講師名:田城 孝雄(放送大学教授)

第6回 グローバル化する世界の公衆衛生・国際協力

グローバル化する世界の中での公衆衛生学の活動を紹介する。新興感染症の蔓延やバイオテロへの防御、地球温暖化や経済格差に起因する健康影響など、今日の健康を取り囲む諸問題には、国境を越え、地球規模で協力して取り組むべき対応が求められている。この回では、国際機関や二国間援助、NGOや民間企業による国際協力など、グローバルヘルスにおける最新の動向とその対応策を学ぶ。

【キーワード】
グローバルヘルス、国際保健、国連ミレニアム開発目標、官民連携

執筆担当講師名:湯浅 資之(順天堂大学教授)
放送担当講師名:湯浅 資之(順天堂大学教授)

第7回 地域保健・健康づくりと地域

地域住民全体を視野においた組織的な活動である地域保健について解説する。地域保健の対象者は、地域住民の全てであり、その全てのライフステージが対象となる。地域保健法は、都道府県と市区町村の役割分担を見直すものである。地域保健法を解説し、保健所と市町村保健センターの役割について講義する。

【キーワード】
地域保健法、保健所、市町村保健センター

執筆担当講師名:田城 孝雄(放送大学教授)
放送担当講師名:田城 孝雄(放送大学教授)

第8回 母子保健

子育て支援を含む母子保健活動について解説し、あわせて少子高齢化対策に関しても解説する。我が国の母子保健体制は、妊娠、出産から幼児期に至るまで予防、治療から養育を含む包括的施策から成り、戦後日本の母子保健水準の向上に大きく寄与してきた。この回では、母子保健法に基づく公的事業のほか、愛育会などの住民参加による子育て支援の地域活動についても学び、母子保健対策の概要を展望する。また、近年社会的関心を集めている幼児虐待や不妊治療・生殖補助医療の現状についても学ぶ。

【キーワード】
母子保健法、母子健康手帳、妊婦健診、乳幼児健診、未熟児養育医療、幼児虐待、不妊治療

執筆担当講師名:湯浅 資之(順天堂大学教授)
放送担当講師名:湯浅 資之(順天堂大学教授)

第9回 成人保健・老人保健

生活習慣病、認知症など、我が国の大きな課題に対する保健活動に関して解説する。社会の高齢化により、ライフスタイルの変化、疾病構造の変化により、がん・心臓病・脳卒中などの生活習慣病が死因の上位を占めるようになった。また、寝たきりや認知症高齢者など介護を必要とする人々が増加している。このような健康課題に対応する成人保健、老人保健制度について解説する。

【キーワード】
生活習慣病、ライフスタイルの変化、介護保険、認知症

執筆担当講師名:田城 孝雄(放送大学教授)
放送担当講師名:田城 孝雄(放送大学教授)

第10回 精神保健

近年、世界的な規模での急激な情報化、および社会経済の変化に伴う人々の心理社会的ストレスは増大する傾向にある。このような状況の中で、人々の精神的健康の維持・増進を図り、様々なストレス反応や不適応状態に対応する精神保健の重要性は高まっている。家庭、学校、職場、近隣地域での生活の場でのような精神保健上の問題が生じているのかを明らかにし、それぞれの問題にどのように対応すれば良いのかを検討する。また、精神医学的知識に基づく医療現場における身体疾患患者への危機介入、医療者のメンタルヘルス、災害時のメンタルヘルスカケアについて実践的な内容を学習する。

【キーワード】
ストレス、精神的健康、メンタルヘルスカケア、生活の場、危機介入

執筆担当講師名:浦川 加代子(順天堂大学教授)
放送担当講師名:浦川 加代子(順天堂大学教授)

第11回 難病保健

難病による障害者対策である難病保健について解説し、難病ケアシステムの必要性について解説する。難

病という名の疾病は存在しないが、我が国では「難病」を原因不明、治療方針未確定で後遺症を残す恐れが少なくない疾病、経過が慢性にわたり経済的な問題のみならず介護等による家族の負担が重く、精神的にも負担の大きい疾病として、様々な対策がとられている。難病対策の概要と難病の研究について解説する。

【キーワード】

難病対策、難治性疾患克服研究事業、特定疾患治療研究対象疾患

執筆担当講師名: 黒澤 美智子(順天堂大学准教授)

放送担当講師名: 黒澤 美智子(順天堂大学准教授)

第12回 感染症対策

感染症の基本知識と予防対策について説明する。感染症対策の法整備の歴史を述べて、さらに最近の新型インフルエンザなど、新興・再興感染症についてと、2007年に改正された感染症法について解説する。さらに結核、HIV・エイズについて解説する。

【キーワード】

感染症、宿主、病原体、感染、発症、感染症法、結核、HIV

執筆担当講師名: 田城 孝雄(放送大学教授)

放送担当講師名: 田城 孝雄(放送大学教授)

第13回 学校保健

学校における保健教育と保健管理である学校保健について解説する。学童から思春期に至る年齢層は、身体的な著しい成長と精神心理面でも大きく変化する時期でもある。しかも、多様化し変化の激しい社会の影響を受けて、現代を生きる子どもたちは新たな健康課題に直面している。こうした現状を踏まえ、この回では学校保健安全法に基づき実施されている我が国の学校保健施策の概要を学び、同時に現代の子どもたちを取り巻く公衆衛生的課題を取り上げ、現状と課題を理解する。

【キーワード】

学校保健安全法、保健教育、保健管理、思春期保健

執筆担当講師名: 湯浅 資之(順天堂大学教授)

放送担当講師名: 湯浅 資之(順天堂大学教授)

第14回 産業保健

労働者の健康障害予防や健康増進を行う産業保健に関して、解説する。昨今の技術革新と時代の変化には目を見張るものがある。それに伴い労働者を取り巻く労働環境も想像以上のスピードで変化している。このような環境の中で働く人々の健康問題において古くから知られている職業病対策に加えて、メンタルヘルス対策をはじめとする新たな問題が浮上し注目を浴びている。働く人々を取り巻く環境について、過去から現在への状況とその対策などについて学んでいく。

【キーワード】

職業病、労働衛生管理、労働安全衛生法

執筆担当講師名: 北村 文彦(順天堂大学准教授)

放送担当講師名: 北村 文彦(順天堂大学准教授)

第15回 災害保健・健康危機管理

大きな震災に見舞われた日本において、災害発災時の初動体制、避難所における衛生・健康管理、障害者・要介護者・高齢者などの社会的弱者の避難や、支援などの方策を検討する。住民の健康、生命の安全を脅かす危機を未然に防止し、災害発生時に被害を最小限に抑制するために行うべき活動について解説する。放射線障害を含む、様々な健康危機管理について解説する。

【キーワード】

災害、初動体制、避難所、社会的弱者、健康危機管理、放射線障害

執筆担当講師名: 田城 孝雄(放送大学教授)

放送担当講師名: 田城 孝雄(放送大学教授)

戻る

シラバス参照

心理臨床と身体の病('16)

Clinical Psychology and Physical Illnesses ('16)

主任講師名: 小林 真理子(放送大学教授)

【講義概要】

めまぐるしい医療技術の進歩の中で、患者中心の医療が提唱されるようになり、患者はその恩恵を受けると同時に、治療の選択や意思決定が求められ、病とどう向き合っていくかという課題にも直面している。そのような医療現場において、心理士の果たす役割は増えている。本科目では、医療における心理臨床について、がん、HIV/エイズ、周産期、生殖医療、遺伝医療、糖尿病、脳血管障害、更年期障害といったさまざまな領域における患者・家族への支援の実際について学ぶ。

【授業の目標】

医療における心理臨床の領域は、健康維持や予防医療など総合的な支援へと広がり、同時に心理士へのニーズも多様になっている。身体医療における心理臨床について、さまざまな考え方や支援の実際についての理解を深める。医療におけるこれからの心理臨床について、また「身体の病を抱えて生きる」ことを支えるために、心理士に求められることについて考える。

【履修上の留意点】

「臨床心理学概論('20)」を履修しておくことが望ましい。
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

各回のテーマと授業内容

第1回 医療システムにおける心理臨床

医療システムにおけるチーム医療の理解、チーム医療における心理士の役割について学ぶ。また、身体疾患に罹患した患者の心理やリエゾン活動における心理的評価の重要性について学んでいく。

【キーワード】

チーム医療、コンサルテーション・リエゾン、患者の心理、心理教育、家族のケア

執筆担当講師名: 幸田 るみ子(静岡大学教授)

放送担当講師名: 幸田 るみ子(静岡大学教授)

小林 真理子(放送大学准教授)

第2回 がんと心理臨床1
ーがん医療の歴史とサイコオンコロジー

わが国では、毎年新たにがんと診断される人は70万人を超え、国民の二人に一人ががんに罹患する可能性があるとされている。国によるがん対策の推進、がんと心の問題を扱うサイコオンコロジーの発展など、がん医療の歴史を中心に学ぶ。

【キーワード】

がん、がん対策基本法、サイコオンコロジー

執筆担当講師名: 小池 真規子(目白大学教授)

放送担当講師名: 小池 真規子(目白大学教授)

第3回 がんと心理臨床2
ー患者の心理と緩和ケア

患者はがんの臨床経過の中でさまざまな体験をする。がんの診断、その後の治療、再発・転移など、それぞれの経過における患者の心理について学ぶ。また、がん医療の進歩とともに発展してきた緩和ケアについて学ぶ。

【キーワード】

がんの臨床経過、包括的アセスメント、緩和ケア

執筆担当講師名: 小池 真規子(目白大学教授)

放送担当講師名: 小池 真規子(目白大学教授)

第4回 がんと心理臨床3
ー患者・家族への心理的支援

患者・家族への心理的支援の実際について概説する。患者・家族への心理的支援は個別による方法のほか、グループによるアプローチが有効な場合がある。また、患者が亡くなった後の家族の悲嘆とその支援についても述べる。

【キーワード】

個別カウンセリング、グループ療法、悲嘆のプロセス

メディア	テレビ
放送時間	2020年度[第2学期](金曜) 16:30~17:15
単位認定試験日/時間	2021/01/24 2時限 (10:25~11:15)
学部・院	教養学部
科目区分	('16カリ) コース科目 専門科目 心理と教育
科目コード	1529110
ナンバリング	330
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2019年度2学期(75.3点) 2019年度1学期(79.8点)
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

執筆担当講師名:小池 真規子(目白大学教授)
放送担当講師名:小池 真規子(目白大学教授)

第5回 がんと心理臨床4 ーがん患者の子どもへの支援

子育て期のがん患者とその子どもへの支援について取り上げる。親のがんが子どもに与える影響や子どもへの告知について概説する。また、子どもへの支援の実際について、サポートグループの実践など最近の取り組みを紹介する。

【キーワード】
子育て期のがん患者、がん患者の子ども、がんを伝える、サポートグループ

執筆担当講師名:小林 真理子(放送大学教授)
放送担当講師名:小林 真理子(放送大学教授)

第6回 HIV/エイズと心理臨床1 ー現状と課題

HIV/エイズの疫学、医療の動向を押さえつつ、患者とパートナー、家族の長期療養における心理的状態とその援助としての心理臨床の現状と課題について概説する。

【キーワード】
感染症、長期療養、患者の心理、告知、セクシュアリティ

執筆担当講師名:矢永 由里子(慶應義塾大学医学部特任講師)
放送担当講師名:矢永 由里子(慶應義塾大学医学部特任講師)

第7回 HIV/エイズと心理臨床2 ー予防・検査を受けることとは

HIVに関する検査について、現状と課題を押さえながら、「検査を受ける」とはどういうことか、その時の支援にはどのようなアプローチが重要かについて検討を加える。検査時の予防のあり方についても検討する。

【キーワード】
インフォームドコンセント、検査前・後カウンセリング、リスク軽減

執筆担当講師名:矢永 由里子(慶應義塾大学医学部特任講師)
放送担当講師名:矢永 由里子(慶應義塾大学医学部特任講師)

第8回 周産期医療と心理臨床1 ー周産期心理臨床の意味と意義

妊娠出産を経て、親子が出会っていく時である周産期に、なぜ心理臨床が必要とされるのかを考える。さらに、赤ちゃんがNICU(新生児集中治療室)に入院した場合など、周産期医療の場における心理臨床について学ぶ。

【キーワード】
周産期医療、NICU(新生児集中治療室)、周産期心理士、チーム・アプローチ

執筆担当講師名:橋本 洋子(山王教育研究所臨床心理士)
放送担当講師名:橋本 洋子(山王教育研究所臨床心理士)
ゲスト:岡田 由美子(加古川中央市民病院臨床心理士)

第9回 周産期医療と心理臨床2 ー周産期心理臨床の実際

赤ちゃんがNICUに入院しなければならない時、赤ちゃんに疾病や障害が認められる時、赤ちゃんが亡くなってしまふ時など、さまざまな状況における周産期心理臨床の実際について学ぶ。

【キーワード】
低出生体重児、関係性の発達、障害のある赤ちゃん、グリーフケア

執筆担当講師名:橋本 洋子(山王教育研究所臨床心理士)
放送担当講師名:橋本 洋子(山王教育研究所臨床心理士)
ゲスト:川野 由子(大阪府立母子保健総合医療センター臨床心理士)

第10回 生殖医療、出生前診断と心理臨床

生殖医療と出生前診断をめぐる医療技術の進歩はめざましいが、一方で、法の整備は進まず、倫理的ディスカッションは十分とは言えない。この領域で心理臨床に携わる時、何を大切に、どのように関わっていくことが必要なのか、考える。

【キーワード】
不妊、体外受精、出生前診断、NIPT(非侵襲的出生前遺伝学的診断)

執筆担当講師名:橋本 洋子(山王教育研究所臨床心理士)
放送担当講師名:橋本 洋子(山王教育研究所臨床心理士)
ゲスト:河合 蘭(フリージャーナリスト)

第11回 遺伝医療と心理臨床

病気の遺伝子レベルでの解明が進み、遺伝医療は急速に進歩している。一方で、遺伝情報は個人を超え家系で共有されるため、患者や家族に困難な課題をもたらすことがある。遺伝カウンセリングの実際について学び、心理臨床の課題と姿勢について考える。

【キーワード】

遺伝性疾患、遺伝学的検査、遺伝カウンセリング、心理臨床

執筆担当講師名: 小林 真理子(放送大学教授)

放送担当講師名: 小林 真理子(放送大学教授)

ゲスト: 浦野 真理(東京女子医科大学附属病院臨床心理士)

第12回 糖尿病と心理臨床

糖尿病は、慢性的高血糖状態を主な症状とする代謝症候群と定義され、完治する病気ではないとされる。糖尿病の治療やそれに伴う患者の心理について理解し、患者の行動変容を目指し、病を抱えて生きていくことを支える心理的アプローチについて学ぶ。

【キーワード】

糖尿病、セルフケアの支援、エンパワーメント・アプローチ、グループ療法

執筆担当講師名: 小林 真理子(放送大学教授)

放送担当講師名: 小林 真理子(放送大学教授)

第13回 脳血管障害と心理臨床

脳血管障害後は、うつ状態や不安症状を呈し、リハビリテーションに支障を生じる場合が少なくない。また、脳血管障害が認知機能に影響を及ぼし、社会復帰への妨げとなる。脳血管障害患者の認知機能を神経心理学的な視点から適切に把握すること、および本人の心理的支援や、家族支援の重要性について学ぶ。

【キーワード】

脳卒中後うつ病、遂行機能障害、神経心理学、心理教育、認知行動療法

執筆担当講師名: 幸田 るみ子(静岡大学教授)

放送担当講師名: 幸田 るみ子(静岡大学教授)

第14回 更年期障害と心理臨床

女性のライフサイクルの中で、更年期は様々なストレスを経験し、身体的にも急激なホルモンの変化や身体機能の低下が始まり負担の多い時期である。更年期女性の心理的ケアの意義とリラクゼーション法の1つである自律訓練法について学ぶ。

【キーワード】

ライフサイクル、更年期障害、ホルモン補充療法、自律訓練法

執筆担当講師名: 幸田 るみ子(静岡大学教授)

放送担当講師名: 幸田 るみ子(静岡大学教授)

第15回 医療における心理臨床の広がり

医療領域の心理士の活動の現状を理解し、「病を抱えて生きる」ことを支える心理臨床の姿勢について学ぶ。また、医療における新しい動向も紹介する。放送授業では、5人の担当講師で、『医療における心理士の今後の課題と展望』というテーマで話し合う。

【キーワード】

心理臨床の意義、病い、物語、サバイバーシップ

執筆担当講師名: 小林 真理子(放送大学教授)

放送担当講師名: 小林 真理子(放送大学教授)

担当講師全員

戻る

シラバス参照

乳幼児・児童の心理臨床('17)

Clinical Psychology for Infants and Children ('17)

主任講師名: 小林 真理子(放送大学教授)、塩崎 尚美(日本女子大学教授)

【講義概要】

子どもを取り巻く厳しい現状の中で、子どもを対象として援助活動をしている臨床心理士は多く、その領域は拡大している。

本科目では、前半に総論として、子どもの心の発達および子どもの心理療法の理論と方法について概説する。後半に各論として、保健・保育、教育、医療、福祉のさまざまな領域における子どもと家族への心理的支援の実際を紹介する。また、児童虐待、発達障害、離婚・ひとり親家庭の子ども、震災後の心理支援等のトピックスについても取り上げ、臨床心理士の果たす役割について論じる。

【授業の目標】

乳幼児期・児童期の子どもと家族に対する心理臨床について、さまざまな支援の考え方や支援の実際についての理解を深める。

【履修上の留意点】

「臨床心理学概論('20)」を履修しておくことが望ましい。
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

各回のテーマと授業内容

第1回 子どもを取り巻く現状と心理臨床

子どもを取り巻く状況は、虐待や貧困、いじめや不登校、災害によるトラウマなどさまざまな問題が山積し厳しいものとなっている。そのような社会に生きる子どもを対象とした心理臨床の領域を紹介するとともに、子どもの援助者として大切な視点や姿勢について考える。

【キーワード】

不登校、いじめ、生物-心理-社会モデル、心理臨床の視点

執筆担当講師名: 小林 真理子(放送大学教授)

放送担当講師名: 小林 真理子(放送大学教授)

塩崎 尚美(日本女子大学教授)

第2回 乳幼児期・児童期の心の発達

乳幼児期から児童期の子どもを対象とした臨床実践においては、心の発達についての理解が必要不可欠である。ここでは心理臨床を実践する上で理解しておくべき、心の発達の諸理論を概説する。

【キーワード】

アタッチメント(愛着)理論、分離-個体化理論、自己感の発達、心理・社会的発達、発達課題

執筆担当講師名: 塩崎 尚美(日本女子大学教授)

放送担当講師名: 塩崎 尚美(日本女子大学教授)

第3回 子どもの心理療法1
遊戯療法

遊戯療法の意義と目的、および、遊戯療法の中で行われるアセスメント、遊戯療法の重要な構成要素である、場所、時間的枠組み、心理的枠組み、用いられる遊具、セラピストの対応について解説する。

【キーワード】

遊戯療法の意義と目的、アセスメント、遊戯療法の構成要素、セラピストの対応

執筆担当講師名: 吉田 弘道(専修大学教授)

放送担当講師名: 吉田 弘道(専修大学教授)

第4回 子どもの心理療法2
親面接

親面接の目的、親面接の進行過程、子どものアセスメントを行うための情報の収集項目および話の聴き方、親面接を行う場合のセラピストの基本的態度、親のアセスメントのポイントについて解説する。

【キーワード】

親面接の目的、情報の収集、セラピストの基本的態度、親のアセスメントのポイント

執筆担当講師名: 吉田 弘道(専修大学教授)

放送担当講師名: 吉田 弘道(専修大学教授)

第5回 子どもの心理療法3
認知行動療法

メディア	テレビ
放送時間	2020年度[第2学期](火曜) 23:15~00:00
単位認定試験日/時間	2021/01/28 5時限 (14:25~15:15)
学部・院	教養学部
科目区分	('16カリ) コース科目 専門科目 心理と教育
科目コード	1529218
ナンバリング	320
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2019年度2学期(85.5点) 2019年度1学期(86.4点)
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

子どものための認知行動療法について、その理論と実践における工夫、ケースフォーミュレーションについて学ぶ。また、子どもの認知行動療法の実際として、不安と怒りへの個別のアプローチとグループプログラムを紹介する。

【キーワード】

認知行動療法、思考(認知)・感情・行動、ケースフォーミュレーション、心理教育、予防プログラム

執筆担当講師名:小林 真理子(放送大学教授)

放送担当講師名:小林 真理子(放送大学教授)

ゲスト:松丸 未来(東京認知行動療法センター)

第6回 子どもの心理療法4 グループアプローチ

グループアプローチは、個人への支援とともに重要な臨床実践である。しかし、グループならではの心性が生じることがあり、グループダイナミクスを意識したかわりが求められる。さまざまなグループアプローチがあることを知り、システマ的見地など、グループ理解を深める。

【キーワード】

グループの治療的要因、グループの発達、グループダイナミクス、グループとしての家族と家族療法

執筆担当講師名:村松 健司(東京都立大学教授)

放送担当講師名:村松 健司(東京都立大学教授)

ゲスト:塩谷 隼平(東洋学園大学教授)

第7回 トピックス1 児童虐待

児童虐待への対応では、子どものトラウマと心身の発達を見据えた支援が必要になる。子どもとの関係づくりを行いながら、同時に長期的に子どもをサポートする視点を身に付けたい。虐待を受けた子どもの心理的サポートとともに、彼らが自己を成長させる環境要因について解説する。

【キーワード】

児童虐待の予防、アタッチメント、ソーシャルサポート、トラウマ、教育支援と特別支援級

執筆担当講師名:村松 健司(東京都立大学教授)

放送担当講師名:村松 健司(東京都立大学教授)

ゲスト:井上 真(横浜いずみ学園園長)

第8回 トピックス2 発達障害

発達障害という概念はこれまで変遷を重ねてきているが、ここでは、2013年に改訂されたDSM-5における新たな診断基準に基づき、発達障害の基本的障害を概観する。また、発達障害を抱える子どもの生きにくさや困難、二次的に生じる問題を理解し支援する重要性を学び、支援の現場におけるアプローチを紹介する。

【キーワード】

発達障害、DSM-5、自閉症スペクトラム(ASD)、注意欠如／多動性障害(AD／HD)、限局性学習障害(SLD)

執筆担当講師名:塩崎 尚美(日本女子大学教授)

放送担当講師名:塩崎 尚美(日本女子大学教授)

第9回 トピックス3 ひとり親・再婚家庭の子ども

近年離婚数の増加に伴い、ひとり親家庭や再婚家庭も増加している。そうした家庭で育つ子どもの抱える心理社会的問題についての検討は十分になされているとはいえない。ここでは、離婚とその後の家族形態への変化が子どもの発達に与える影響を理解するとともに、その支援についていくつかの実践活動を紹介し、今後求められる支援を考えていく。

【キーワード】

ひとり親家庭、再婚家庭、面会交流、離婚・再婚の子どもへの影響

執筆担当講師名:塩崎 尚美(日本女子大学教授)

放送担当講師名:塩崎 尚美(日本女子大学教授)

ゲスト:福丸 由佳(白梅学園大学教授)

第10回 トピックス4 災害後の子どもの心理支援

災害で大切な人やもの(住み慣れた環境、安全感)を失った子どもへの支援について考える。特に東日本大震災後に行われてきた様々な心理的支援について、実際に関わってこられた支援者の方々からの活動報告も含めて紹介する。

【キーワード】

サイコロジカル・ファーストエイド(PFA)、こころのサポート授業、集団遊戯療法、グリーフサポート

執筆担当講師名:小林 真理子(放送大学教授)

放送担当講師名:小林 真理子(放送大学教授)

ゲスト:富永 良喜(兵庫県立大学大学院教授)

第11回 臨床現場から1 子育て支援・保育カウンセリング

子どもの心理的問題は、乳幼児期からの微細な問題の蓄積によって生じるものも多い。そうした問題を予防

することも、心理臨床の役割の一つになってきている。そのためには、早期にその兆候を発見し対応することが必要である。ここでは、早期発見のために重要な役割を果たしている、乳幼児健診や地域の子育て支援・保育カウンセリングについて概観し、それぞれの現場の臨床心理士の役割について学ぶ。

【キーワード】

乳幼児健診、子育て支援、保育カウンセリング、早期発見、予防的介入

執筆担当講師名:塩崎 尚美(日本女子大学教授)

放送担当講師名:塩崎 尚美(日本女子大学教授)

第12回 臨床現場から2 教育センター・教育相談室

不登校やいじめへの対応、発達障害の可能性のある子どもへの特別支援など、教育センターや教育相談室など教育領域における心理臨床について学ぶ。臨床現場の紹介を通して、乳幼児期・児童期における子どもと保護者への支援、多職種との協働、他部署機関との連携について考える。

【キーワード】

不登校、いじめ、教育相談、就学相談、特別支援教育、ネットワーク支援

執筆担当講師名:小林 真理子(放送大学教授)

放送担当講師名:小林 真理子(放送大学教授)

ゲスト:波田野 茂幸(国際医療福祉大学大学院准教授)

第13回 臨床現場から3 児童福祉施設・児童相談所

施設における心理職は新たに加わった専門職であり、児童福祉臨床において社会的養護の仕組みを知ることには必須事項である。施設における心理職の働き方については、現在いくつかの立場がある。実際にどういった立ち位置を取るかは、施設の状況もあり簡単ではないが、「共同養育」の視点をもとに、他職種(多職種)協働における専門職としての心理職の貢献について理解を深める。

【キーワード】

社会的養護、児童養護施設、施設における心理支援、連携・協働

執筆担当講師名:村松 健司(東京都立大学教授)

放送担当講師名:村松 健司(東京都立大学教授)

第14回 臨床現場から4 小児科・児童精神科

身体の病気や発達上の問題、心身症、精神疾患など、小児科や児童精神科における子どもと家族への心理臨床の実践について学ぶ。臨床現場として、大学附属の子ども医療センターを紹介しながら、多職種によるチーム医療の中の心理士の姿勢や果たす役割について理解を深める。

【キーワード】

小児科、児童精神科(心の診療科)、チーム医療

執筆担当講師名:小林 真理子(放送大学教授)

放送担当講師名:小林 真理子(放送大学教授)

第15回 子どもの心理臨床のこれから

今日の日本社会は、所得格差や家族の価値観の多様化など、早いテンポで激しい変化が起きている。そうした変化は、子どもの発達にどのような影響を及ぼしているのかを考え、それに伴い多様化する子どもの心理臨床の新たな役割と方向性を探っていく。

【キーワード】

心理臨床の社会的役割、予防的介入、チーム支援、他職種との連携と協同、コミュニティ支援

執筆担当講師名:塩崎 尚美(日本女子大学教授)

放送担当講師名:小林 真理子(放送大学教授)

塩崎 尚美(日本女子大学教授)

[戻る](#)

シラバス参照

博物館情報・メディア論('18)

Museum Information and Media ('18)

主任講師名：稲村 哲也(放送大学特任教授)、近藤 智嗣(放送大学教授)

【講義概要】

博物館は、展示による情報の発信のために、さまざまなメディアを利用する。一方で、博物館自体が、展示を通じて、さらには博物館全体として、社会に情報を発信するメディアそのものとも言える。そうした「メディアとしての博物館(展示)」の観点から、この講義では、多様な博物館の具体的な事例を通して、博物館の展示とは何か、情報とメディアとは何かを考えると共に、展示に関わる情報とメディアの手法、技術、理論、利点、課題などを包括的に学ぶ。第一義的には学芸員資格のための科目であるが、情報やコミュニケーションや文化に関心のある学生、一般の受講者にとっても、幅広い教養を楽しく学べる内容である。

【授業の目標】

第一義的には、博物館学芸員資格を取得することを目標とする。博物館の展示に関わる情報とメディアとは何かをしっかりと踏まえたうえで、情報とメディアの基礎と応用に関する、具体的、また理論的な知見を習得する。また、それを通して、情報、メディア、文化等に関する広く深い考え方や教養を身につける。

【履修上の留意点】

※この科目は、人間と文化コース開設科目ですが、心理と教育コース・情報コースで共用科目となっています。

※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

メディア	テレビ
放送時間	2020年度[第2学期](土曜) 10:30~11:15
単位認定試験日/時間	2021/01/28 1時限 (09:15~10:05)
学部・院	教養学部
科目区分	('16カリ) コース科目 専門科目 人間と文化
科目コード	1555014
ナンバリング	310
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2019年度2学期(79.1点) 2019年度1学期(75.5点)
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

各回のテーマと授業内容

第1回 メディアとしての博物館

博物館は、情報の発信のために、さまざまなメディアを利用する。博物館はまた、展示を通じて、さらには博物館全体として、情報を発信するメディアでもある。そうした「メディアとしての博物館(展示)」という考え方は重要である。その考え方をより深く理解するため、コミュニケーションの記号論を学び、博物館展示における情報の伝達、さらに、「感動」の伝達について考える。

【キーワード】

博物館における情報、メディアとしての博物館、コミュニケーション、記号論

執筆担当講師名：稲村 哲也(放送大学特任教授)

放送担当講師名：稲村 哲也(放送大学特任教授)

第2回 博物館における情報とメディアの基礎

博物館には、さまざまな種類・規模の映像展示があるが、まず、博物館の展示における情報から考える。そこから、映像やICT技術による展示解説の役割等について考え、その事例を紹介する。また、博物館におけるICTやメディアの利用の重要性が拡大しているが、ここでは、その発展についても概観する。

【キーワード】

映像展示、ICT、デジタルミュージアム、情報KIOSK端末、大型映像装置、ミクストリアリティ

執筆担当講師名：近藤 智嗣(放送大学教授)

放送担当講師名：近藤 智嗣(放送大学教授)

第3回 博物館におけるメディア・リテラシー

学芸員が知っておくべきメディア・リテラシーとして、写真とビデオのマニュアル撮影を取りあげる。マニュアル撮影することで、博物館における撮影の質を向上させることができるが、特に初心者にはわかりにくいと思われる事項を取りあげることにする。

【キーワード】

絞り、シャッタースピード、被写界深度

執筆担当講師名：近藤 智嗣(放送大学教授)

放送担当講師名：近藤 智嗣(放送大学教授)

第4回 資料のドキュメンテーションとデジタル・アーカイブズ

博物館は資料を収集し、長期にわたり保存し後世に伝えるだけでなく、集めた資料を調べ、情報を取り出した成果を社会に還元しなくてはならない。社会の情報化、ネットワーク化が進み、博物館も情報をデジタル化し活用する機会が増えている。ここでは、博物館情報のデジタル化と情報発信について概観する。

【キーワード】

メタデータ、ドキュメンテーション、情報通信技術、デジタル・アーカイブ

執筆担当講師名:有田 寛之(国立科学博物館専門員)
 放送担当講師名:有田 寛之(国立科学博物館専門員)

第5回 博物館と知的財産

博物館にとって、知的財産権や肖像権等の保護と活用のバランスを図ることは、重要な課題となっている。情報通信技術の発展により、情報の伝搬スピードと範囲は劇的に拡大している。その結果、博物館の情報収集・発信手段は多様化し、博物館で取り扱う法的対応も複雑化している。ここでは、博物館の業務と著作権を中心に、その問題を考える。

【キーワード】
 著作権、肖像権、権利処理

執筆担当講師名:児玉 晴男(放送大学教授)
 放送担当講師名:児玉 晴男(放送大学教授)

第6回 ユニバーサル・ミュージアムと情報・メディア

ユニバーサルデザインとは、できるだけ多くの人々が利用可能なデザインのことである。博物館においても、ハンズオン展示や解説機器など、さまざまなユニバーサルデザインがある。ここでは、特にメディアや情報技術による博物館のユニバーサルデザインを取りあげる。

【キーワード】
 ユニバーサルミュージアム、ユニバーサルデザイン、アクセシビリティ、ハンズオン展示

執筆担当講師名:近藤 智嗣(放送大学教授)
 放送担当講師名:近藤 智嗣(放送大学教授)

第7回 博物館教育の多様な機会と情報・メディア

博物館の多様な利用者は、博物館の内外でさまざまな学際的な学習・研究活動を展開している。これらの機会を想定し、貢献するため、博物館が提供する情報と各種メディア及びその活用の具体例を参照しながら、博物館の取り組みや課題を検討する。

【キーワード】
 博物館教育、e-ラーニング、メディアとしての博物館、参加型調査、VR、学際的学習・研究、検索、専用ポータルサイト、情報に関わる格差、情報リテラシー

執筆担当講師名:大高 幸(慶應義塾大学大学院非常勤講師)
 放送担当講師名:大高 幸(慶應義塾大学大学院非常勤講師)

第8回 博物館の情報・メディア拡充へのさまざまな連携

博物館は、研究促進、展示やプログラム、情報公開サービスを含む教育機会提供の拡充、これらの実現を可能とする運営体制向上のために、市民グループや専門家、他機関等と情報を共有し、多様な連携を図っている。その具体例を参照しながら、博物館の取り組みや課題を検討する。

【キーワード】
 研究に関する連携、教育機会提供に関する連携、情報共有化に関する連携

執筆担当講師名:大高 幸(慶應義塾大学大学院非常勤講師)
 放送担当講師名:大高 幸(慶應義塾大学大学院非常勤講師)

第9回 科学系博物館における情報・メディア

科学系博物館の展示にはさまざまな年代の、多様な利用目的を持った来館者が訪れる。同じ展示資料を見ても、そこから受ける印象や得る情報は来館者ごとに異なる。ここでは、国立科学博物館の事例をもとに、展示における多様な利用者に向けた情報発信について紹介する。

【キーワード】
 博物館体験、博物館疲労、情報発信、展示解説の階層化

執筆担当講師名:有田 寛之(国立科学博物館専門員)
 放送担当講師名:有田 寛之(国立科学博物館専門員)

第10回 生き物(水族)の博物館における情報・メディア

「水族」を中心とする生き物の博物館として、海遊館とニフレルを取りあげる。前者は「生態展示」を特徴とする臨海の大型屋内水族館で、後者は「感性にふれる」をテーマとした全く新しいタイプの都市型の複合的ミュージアムである。コンセプトが異なるこの2館を比較し、「コミュニケーションの記号論」の観点から、生き物の博物館における情報とメディアについて考える。

【キーワード】
 生態展示、コンセプト、リング・オブ・ライフ(環太平洋生命帯)、感性にふれる、記号としての魚(生き物)

執筆担当講師名:稲村 哲也(放送大学特任教授)
 放送担当講師名:稲村 哲也(放送大学特任教授)

第11回 生き物(サル)の博物館における情報・メディア

生き物の博物館のもう一つの例として取りあげる日本モンキーセンターは、1957年に「博物館登録された動物園」として発足し、60年近くを経て公益財団法人となった。現在、京都大学の現役の教員が運営し、博物館はいかにあるべきか、研究成果・情報をどのように展示し発信するかなどについて、さまざまな検討や実践が行なわれている。そこで、同センターの展示やスタッフの活動を紹介し、生き物の博物館の有り方について考える。

【キーワード】

霊長類学、京都大学、ビジターセンター、生態展示、キュレータートーク

執筆担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

第12回 民族と歴史の博物館における情報・メディア

国立民族学博物館(民博)は、研究に基づく情報の発信を重視して設立された博物館として重要である。その創設当初の構想と30年後に策定された新基本構想を比較し、それがどのように展示に反映されてきたかを検討する。国立歴史民俗博物館(歴博)では、重要な文化財の保存と展示のバランスに苦心し、当初からレブリカが利用されたが、ITの進歩によって、デジタル技術等の活用が重視されてきた。この重要な2館を比較しながら、博物館の情報とメディアの有り方とその変化について考える。

【キーワード】

梅棹忠夫、構造展示、ビデオテーク、フォーラムとしての博物館、双方向性、文化財、保存と展示、レブリカ、デジタル画像

執筆担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

第13回 美術館における情報・メディア

美術館における情報には、美術館自体、資料である美術作品や、教育機会、利用者とのコミュニケーション等に関わるものがあり、これらの情報を利用者が館内・館外で活用する場合によりさまざまなメディアがある。これらの具体例を参照しながら美術館の取り組みや課題を検討する。

【キーワード】

鑑賞、触覚、複製、VR、シリーズ化、アウトリーチ、パブリシティ、広告、インターネット上のコミュニケーション、ソーシャルメディア

執筆担当講師名: 大高 幸(慶應義塾大学大学院非常勤講師)

放送担当講師名: 大高 幸(慶應義塾大学大学院非常勤講師)

第14回 考古の博物館における情報・メディア

縄文文化の三内丸山遺跡・まるやまミュージアム・青森県立郷土館と、古墳文化の西都原古墳群・宮崎県立西都原考古博物館を取りあげ、サイト・ミュージアムでもある考古学の博物館で、研究成果・情報がどのように展示され発信されているのか、その背景にあるコンセプトがどのようなものであるかを比較し、考える。また、新しい情報・メディア技術がどのように活用されているのかをみていく。

【キーワード】

三内丸山、縄文文化、西都原古墳群、古墳文化、フィールド・ミュージアム(野外博物館)、サイト・ミュージアム(遺跡博物館)

執筆担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

第15回 地域の総合博物館における情報・メディア

滋賀県立琵琶湖博物館は、琵琶湖をかかえる滋賀県の特性を生かした、地域に密着した博物館である。湖と人との関わりの総体の歴史から、近代文明の有り方をもとらえなおし、自然とのつきあい方を探るための博物館を目指している。同博物館はまた、「フィールドへの誘い」、「交流の場」をコンセプトとして掲げ、実践してきた。これらのコンセプトと実践を検討し、「メディアとしての博物館」の観点から、社会に開かれた博物館の有り方を考える。

【キーワード】

琵琶湖、研究と地域、湖と人間、フィールドへの誘い、交流の場、個人的文脈

執筆担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

戻る

シラバス参照

博物館概論（'19）

Introduction to Museum Practice（'19）

主任講師名：稲村 哲也（放送大学特任教授）

【講義概要】

博物館学の基本、博物館の多様なジャンルと運営の現状、学芸員の活動の基本を踏まえ、世界の博物館、日本の博物館の歴史を概観し、博物館の具体的な事例を通して、博物館の展示の手法・技術、展示のメッセージ性、資料とその保存、情報とメディア、博物館と教育、国際連携を含む多様な連携等について概説的、包括的に学ぶ。学芸員資格取得の希望者を対象とするが、同時に、博物館と関係する多様なジャンル（自然史、生物、科学、考古・歴史、文化、美術など）とその研究・実践、ディスプレイ等に関心のある学生、視聴者等、一般の受講者にとっても興味深い内容である。

【授業の目標】

博物館学と博物館の全般、博物館に関わる多様な分野の基礎的な知見と考え方を習得し、博物館学芸員資格を取得することを目標とする。博物館と社会の関連性や連携についても学習し、一般教育としても、幅広い視点と知識を身につけ、考える力を養成する。

【履修上の留意点】

※この科目は、2016年度以降のカリキュラムの方においては人間と文化コース開設科目ですが、心理と教育コースで共用科目となっています。
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

各回のテーマと授業内容

第1回 博物館学とは

博物館学とは、博物館の目的とそれを達成するための理論であり、博物館とは何かを追究する学問である。ここでは、博物館の定義を踏まえ、博物館学の理念、内容、方法を把握し、博物館の組織と運営の基本について理解する。また、コラムで博物館の実際の運営についても学ぶ。

【キーワード】

博物館学、博物館法、UNESCO(ユネスコ)、ICOM(イコム 国際博物館会議)、学芸員、組織、運営、仙台市縄文の森広場

執筆担当講師名：井上 洋一（東京国立博物館副館長）
放送担当講師名：稲村 哲也（放送大学特任教授）
井上 洋一（東京国立博物館副館長）

第2回 博物館と学芸員

博物館の多様性とその現状について概観したうえで、学芸員の役割について把握し、特別展の企画・準備の過程の実例から、学芸員の一連の作業について理解する。また、コラムで紹介する学芸員の実際の活動を知り、学芸員のあり方について学ぶ。

【キーワード】

日本博物館協会、博物館総合調査、登録博物館、博物館相当施設、博物館類似施設、特別展、モンゴル、ギャラリー・トーク(展示場でのトーク)、ハンズオン

執筆担当講師名：稲村 哲也（放送大学特任教授）
放送担当講師名：稲村 哲也（放送大学特任教授）

第3回 ヨーロッパとアメリカにおける博物館の歴史と現在

ヨーロッパの王侯貴族が邸宅内に設けた「珍品陳列室」、「驚異の部屋」にさかのぼるヨーロッパの博物館の起源と歴史を概観するとともに、植民地と関わる万国博覧会、それと博物館の歴史、また、アメリカにおける博物館の起源と歴史、及び現状を概観する。

【キーワード】

驚異の部屋、博物館学、大英博物館、ルーヴル美術館、民族学博物館、近代美術館

執筆担当講師名：吉田 憲司（国立民族学博物館長）
放送担当講師名：吉田 憲司（国立民族学博物館長）

第4回 アジア・アフリカにおける博物館の歴史と現在

植民地時代に、主として、植民地の開発・研究、そして搾取を目的としたアジアやアフリカの博物館の設立とその運営、独立後の博物館の変化など、アジアとアフリカの博物館の歴史を概観する。宗主国と植民地の関係をも博物館を通じて検討する。

【キーワード】

植民地経験、世界遺産、無形文化遺産、コミュニティ博物館

メディア	テレビ
放送時間	2020年度〔第2学期〕(月曜) 10:30～11:15
単位認定試験日／時間	2021/01/30 4時限 (13:15～14:05)
学部・院	教養学部
科目区分	('16カリ) コース科目 導入科目 人間と文化
科目コード	1740121
ナンバリング	210
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2019年度2学期(79.6点) 2019年度1学期(77.9点)
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

執筆担当講師名: 吉田 憲司(国立民族学博物館長)
 放送担当講師名: 吉田 憲司(国立民族学博物館長)

第5回 日本における博物館の歴史と現在

正倉院の御物に始まる日本のコレクション、江戸期の社寺による出開帳の伝統など日本古来の歴史、明治以降にヨーロッパから日本に輸入された博物館・美術館概念、博覧会開催とその後の歴史を概観するとともに、日本の博物館の特徴について検討する。

【キーワード】

万国博覧会、内国勲業博覧会、帝室博物館、東京国立博物館、近代数寄者、私立美術館、国立民族学博物館

執筆担当講師名: 吉田 憲司(国立民族学博物館長)
 放送担当講師名: 吉田 憲司(国立民族学博物館長)

第6回 博物館の展示の手法・技術

博物館の展示の基本的な考え方を踏まえ、ここでは、展示を具体化するための様々な方法や技術—資料の固定、視線、動線、キャプション、解説、照明、ケース、ハンズオン、参加型展示など—を具体的に概説する。

【キーワード】

コンセプト、展示の手法、固定、視線、動線、キャプション、解説、照明、ケース、ハンズオン、参加型展示

執筆担当講師名: 井上 洋一(東京国立博物館副館長)
 放送担当講師名: 井上 洋一(東京国立博物館副館長)
 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)

第7回 博物館展示のメッセージ性: イデオロギーと戦争・平和

博物館はメッセージを発し、時の社会を反映し、また社会に影響を与える。ここでは、まず、国家体制と関わる日本の戦前の博物館構想や、社会主義の終焉を経験したモンゴルの博物館を紹介する。現代においては、戦争・平和の展示をテーマとしてとりあげ、博物館とその展示のメッセージ性・政治性について考える。

【キーワード】

メディアとしての博物館、国立民族学博物館、万国博覧会、国史館、国立歴史民俗博物館、イデオロギー、植民地、モンゴル、社会主義、戦争、戦場、平和、広島、長崎、沖縄

執筆担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)
 放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

第8回 博物館展示のメッセージ性: 海外における負の遺産の展示

博物館のメッセージ性・政治性は、博物館と社会のつながりを考えるうえで重要である。ここでは、インドネシアと宗主国オランダの博物館について、植民地時代から現代への変化について理解し、展示される側との対話、協働などについても検討する。また、英独を比較し、戦争などの負の遺産の展示について考える。

【キーワード】

植民地、ナショナル・アイデンティティ、インドネシア、オランダ、植民地博物館、奴隷貿易、人種差別、人権、フォーラムとしての博物館、先住民、戦争、ホロコースト、負の遺産、和解

執筆担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)
 放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

第9回 博物館展示と情報・メディア

博物館の情報とメディアとは何かを踏まえ、メディアとしての博物館の観点から博物館展示の特徴を理解し、アナログなメディアと、デジタル技術を活用したメディアについて、多様な事例をとりあげて、その利点や課題について考える。また、デジタル技術活用の現状も把握し、そのあるべき姿についても検討する。

【キーワード】

アナログ、デジタル、メディアとしての博物館、固定型端末、携帯型端末、VR(仮想現実)、MR(ミクストリアリティ)、デジタルミュージアム

執筆担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)
 放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

第10回 博物館資料の保存と修復

博物館では資料の保存と修復がどのように行われているか概説する。保存と修復は学術研究や科学技術の進展そして時代や社会と共に変化する。伝統技術に科学技術を活用した修理や地球温暖化対策の流れの中で日本の博物館に導入されたIPM:総合的有害生物管理について紹介する。

【キーワード】

資料の保管、保存、保存環境、保存科学、修理、修復、IPM:総合的有害生物管理、持続可能

執筆担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)
 放送担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)

第11回 博物館における文化財の保存と活用

近年、文化財(美術工芸品)の積極的な活用が求められ、博物館では、展示・公開に伴う様々な影響の軽減や計画的な修理を行う等の取り組みにより、保存と活用の両立が目指されている。東京国立博物館他の事例を紹介し、博物館における文化財の保存と活用について考える。

【キーワード】

文化財、保存と活用、公開期間、光、温度、湿度、空気汚染物質、生物被害対策、修理、輸送

執筆担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)

放送担当講師名: 井上 洋一(東京国立博物館副館長)

本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)

第12回 博物館教育の特徴と可能性

博物館の多様な利用者は、博物館の内外で様々な学際的な学習・研究活動を展開している。これらの機会を想定し、利用者に貢献するため、博物館が提供する教育機会の具体例を参照しながら、博物館の取り組みや課題を検討する。

【キーワード】

博物館教育、学習、鑑賞、コミュニケーション、展示、ワークショップ、探究型学習、エデュケーション・センター、子ども博物館

執筆担当講師名: 大高 幸(慶應義塾大学大学院非常勤講師)

放送担当講師名: 大高 幸(慶應義塾大学大学院非常勤講師)

第13回 博物館とさまざまな連携

博物館は、多様な利用者に貢献するため、研究促進、展示やプログラム等を含む教育機会提供の拡充、これらを可能とする運営体制向上を図るべく、市民グループや専門家、他機関等と多様な形態の連携を展開している。その具体例を参照しながら、博物館の連携への取り組みや課題を検討する。

【キーワード】

検索、マス・メディア、社会的媒体、アウトリーチ、ネットワーク、博学連携、観光、生涯学習、ディスカバリー・ルーム

執筆担当講師名: 大高 幸(慶應義塾大学大学院非常勤講師)

放送担当講師名: 大高 幸(慶應義塾大学大学院非常勤講師)

第14回 博物館と国際連携

ICOM(国際博物館会議)とその活動、ICOM日本委員会の活動、また、わが国の博物館の国際連携活動についてまとめる。また、制度的な国際連携の例として国立民族学博物館と琵琶湖博物館によるJICA国際研修、個別的な国際連携の例として、東京大学と大学博物館、北海道博物館、沖縄県立博物館の活動などを紹介し、多様な国際連携のあり方について考える。

【キーワード】

ICOM(国際博物館会議)、ICOM日本委員会、JICA(国際協力機構)、国立民族学博物館、リトルワールド、モンゴル、ペルー、クントゥル・ワシ博物館、東京大学総合研究博物館、エチオピア、北海道博物館

執筆担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

第15回 新たな時代の博物館

日本博物館協会が2000年に「対話と連携」を柱とした運営指針を策定した。その後、博物館は多様な連携や事業を展開してきた。この科目では、各回のテーマにそって博物館のあり方にも言及してきたが、最終回では、「対話と連携」を踏まえつつ、新たな時代の博物館のあり方についてまとめ、資料保存、展示の工夫、社会的包摂、多様な連携、地域社会の拠点、博物館の果たすべき社会的役割などについて考える。

【キーワード】

対話と連携、博物館力、資料保存、地域連携、多様な連携、マチュピチュ、アンデス文明

執筆担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

戻る

シラバス参照

博物館展示論（'16）

Museum and Exhibition Studies（'16）

主任講師名：稲村 哲也（放送大学特任教授）

【講義概要】

この講義では、人類の遺産、歴史、文化、自然や科学が、いかにして博物館の展示として表現されるのかを、事例を通じて理解するとともに、展示のもつメッセージ性について学ぶ。まず、博物館の種類、展示の種類、展示の構造などの概要を学んだあと、日本と世界の博物館の事例を通して、まず博物館展示の多様な特徴を理解する。さらに、博物館の設立や特別展、リニューアルなどの過程やその背景を知り、多様な展示を比較しながら、展示のコンセプトやメッセージがどのように表現されるのかを理解する。また、博物館展示と社会との相互作用や、展示にこめられたメッセージ性や政治性について考える。

【授業の目標】

まず、博物館の展示とは何かを理解し、多様な博物館の展示の手法、工夫、技術等について、事例を通して学ぶ。また、博物館の展示のコンセプトやメッセージが実際にどのようにして具現化されるのかを、博物館の設立、特別展、リニューアルなどを通して学ぶ。さらに、展示制作者（発信者）が、研究をどのように展示に活かすのか、観覧者（受信者）や社会とどのように向き合うのか、それをコンセプトにどのように組み込み、展示に反映させるのか、などの動的な営みについても学ぶ。最後に、国家や社会の体制、大きな歴史的な脈絡のなかで、博物館展示がどのようなメッセージ性や政治性をもつのかについて考える。

【履修上の留意点】

単位認定試験には、映像教材からも比較的多く出題する。
※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

メディア	テレビ
放送時間	2020年度〔第2学期〕(火曜) 15:45～16:30
単位認定試験日／時間	2021/01/28 5時限 (14:25～15:15)
学部・院	教養学部
科目区分	('16カリ) コース科目 専門科目 人間と文化
科目コード	1554875
ナンバリング	310
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2019年度2学期(77.1点) 2019年度1学期(82.2点)
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

各回のテーマと授業内容

第1回 展示論とは・展示の構想と具現化
ーリトルワールド本館展示

第1章では、まず、博物館展示とは何か、また、展示の多様な手法や特徴を整理して理解する。事例では、担当講師がその開設に携わった野外民族博物館リトルワールドの基本構想、本館展示のコンセプトの検討、その具現化までの過程を通じ、具体的な展示制作の流れについて学ぶ。

【キーワード】

展示の理論と実践、博物館の分類、展示の分類、コンセプト、メッセージ、展示の政治性、テーマ、展示の階層構造

執筆担当講師名：稲村 哲也（放送大学特任教授）

放送担当講師名：稲村 哲也（放送大学特任教授）

第2回 現地調査と展示の具現化
ーリトルワールド野外展示

本章では、リトルワールド野外展示場の3つの展示、アイヌ・コタン、ネパールの仏教寺院、ペルーのアシエンダ（大農園）領主邸宅の事例を通じて、展示のコンセプト、調査や収集の実際、さまざまな人との協力、状況に応じた判断と工夫など、博物館の展示活動全般に通じる事柄について学び、考察する。

【キーワード】

アイヌ・コタン、シェルパ、仏教寺院、チベット仏教、アシエンダ、インディオ（先住民）、日本人移民

執筆担当講師名：稲村 哲也（放送大学特任教授）

放送担当講師名：稲村 哲也（放送大学特任教授）

第3回 国立博物館の展示
ー東京国立博物館と九州国立博物館

展示は、博物館活動のなかでも中心的位置を占める重要なテーマである。本章では、独立行政法人国立文化財機構が設置する「国立博物館」の中でも、最古の東京国立博物館と最新の九州国立博物館の平常展示を取り上げ、それぞれの展示の概要や展示室の構造を理解したうえで、両者を比較し、展示の意味を考察する。

【キーワード】

平常展、総合文化展、テーマ展、文化交流展、コンセプト優先型、モノに語らせる、モノで語る

執筆担当講師名：井上 洋一（東京国立博物館副館長）

放送担当講師名：稲村 哲也（放送大学特任教授）

井上 洋一（東京国立博物館副館長）

第4回 博物館のリニューアル
ー国立科学博物館と静岡科学館

博物館の展示は、規模の差はあるにしても、何らかの形でリニューアルされていくのが一般的である。本章では、国立科学博物館と静岡科学館を取りあげ、博物館のリニューアルの実際について学び、リニューアルは何故必要なのか、リニューアルする際に考えなければいけないことは何か、などについて考える。

【キーワード】

自然科学系博物館、博物館のリニューアル、展示のリニューアル、展示の再利用、メンテナンス

執筆担当講師名: 近藤 智嗣(放送大学教授)

放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

近藤 智嗣(放送大学教授)

第5回 特別展の構想と具現化 — 科博のグレートジャーニー展

本章では、国立科学博物館における特別展「グレートジャーニー」を取り上げ、この展覧会の作成過程を見ていながら、コンセプトに沿った展示物の選定、展示方法のポイント、効果的な展示方法がどのように組み立てられていくかを具体的に学ぶ。更に展示の評価をどのように行うかについても理解する。

【キーワード】

人類の移動拡散、空間構成の工夫、イラスト・絵の活用、展示品選定の方法、グラフィックの工夫、ミニチュアやレプリカの活用、ケースの工夫、照明の工夫

執筆担当講師名: 関野 吉晴(武蔵野美術大学教授)

放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

関野 吉晴(武蔵野美術大学教授)

第6回 民族文化の展示 — 国立民族学博物館の舞台裏

近年、世界の民族学博物館では、展示のコンセプトや構成などが多様になっている。本章では、日本の国立民族学博物館で行われてきたいくつかの展示実践の事例を通じて、それらがどのような内容のもので、どのような研究をベースとし、どのような経緯で生まれたものであるのかなど、展示の背景について考える。

【キーワード】

民族学(文化人類学)、モノの収集、常設展示、企画展示、アフリカ展示、日本展示、アマゾン、イメージの世界

執筆担当講師名: 池谷 和信(国立民族学博物館教授)

放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

池谷 和信(国立民族学博物館教授)

第7回 大学博物館の展示とその役割 — 国立大学と私立大学

近年、大学博物館の重要性が大きくなっているが、大学博物館が学内及び社会に対して果たしている役割や意義は何だろう。大学博物館の展示のコンセプトや特徴は、大学によってどのように異なるだろう。本章では、国立4大学、私立2大学の事例を取り上げ、それらについて比較し、考える。

【キーワード】

学術標本、大学総合博物館化、研究・教育、知の蓄積と継承、フィールド・サイエンス

執筆担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

第8回 歴史系博物館の展示 — 国立歴史民俗博物館と地方の博物館

本章では、まず国立歴史民俗博物館と東北歴史博物館の展示を比較検討し、歴史系博物館の展示のコンセプトとそのメッセージ性や政治性について考える。また、吹田市立博物館と知多市歴史博物館を取り上げ、地域密着型の歴史系博物館の特徴やその役割、また市民との共同などについて学ぶ。

【キーワード】

歴史系博物館、博物館の政治性、展示の政治性、地域の歴史、エミン、地域密着、市民参画、ボランティア

執筆担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

第9回 沖縄の博物館 — 固有の歴史と戦争体験をめぐる博物館展示

本章では、沖縄県立博物館・美術館と県平和祈念館を中心に、沖縄の歴史、文化、現状、戦争体験などが、展示にどのように表現されるのかを紹介し、博物館展示の意義と内容について考える。また、沖縄本島や離島(石垣島)の他の博物館も取り上げ、それらの博物館の展示が相互に補い合っていることについても学ぶ。

【キーワード】

琉球王国、沖縄戦、琉球政府、戦争体験、住民証言、いのちのこぼ、平和の礎、総合展示、部門展示

執筆担当講師名: 園原 謙(沖縄県立博物館・美術館副参事兼博物館班長)

放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

園原 謙(沖縄県立博物館・美術館副参事兼博物館班長)

第10回 アイヌ民族と北海道の博物館 — 展示をめぐる立場と視点

博物館はアイヌ民族の歴史や文化をどのように展示してきたのだろうか。そこには博物館が乗り越えなければ

ばならないどのような課題があるのだろうか。本章では、主に北海道博物館のリニューアルを通じて、考える。また、北海道の他の博物館のアイヌ文化展示も取りあげ、博物館展示の相互補完的な関係についても学ぶ。

【キーワード】

アイヌ文化、時代性、通史展示、アイヌ民族の歴史、アイヌ民族の現在、無形文化の展示、テーマ別展示

執筆担当講師名：出利葉 浩司(元北海道博物館学芸員)

放送担当講師名：稲村 哲也(放送大学特任教授)

出利葉 浩司(元北海道博物館学芸員)

第11回 北米の博物館
—カナダ、アルバータ州の博物館を中心に

博物館の展示は学芸員だけによって作られるのではない。館外の人びとと共同で作りあげることがある。作る人が異なれば、価値観も異なり、「展示物」や、それをもとに「いいたいこと」も異なる。本章では、主にカナダのアルバータ州の2つの博物館の事例を通じて、こうした問題にどのように対応すべきかを考える。

【キーワード】

先住民、神話、ティピ、円形の広場、伝承活動、儀式、語り、博物館資料

執筆担当講師名：出利葉 浩司(元北海道博物館学芸員)

放送担当講師名：稲村 哲也(放送大学特任教授)

出利葉 浩司(元北海道博物館学芸員)

第12回 南米の博物館
—ペルーにおける考古学と博物館

本章では、古代アンデス文明の膨大な文化遺産を抱える、ペルー共和国を対象として、国家、個人、研究者などさまざまな主体による博物館の設立、運営、展示活動とその背景について知る。考古資料の性質、研究の進展・動向、社会状況などが博物館のあり方に大きく影響することについても学ぶ。

【キーワード】

アンデス文明、考古資料、ナショナル・アイデンティティ、天野コレクション、遺跡博物館、クントウル・ワシ遺跡、東京大学古代アンデス調査団

執筆担当講師名：鶴見 英成(東京大学総合研究博物館助教)

放送担当講師名：稲村 哲也(放送大学特任教授)

鶴見 英成(東京大学総合研究博物館助教)

第13回 ヨーロッパの博物館
—ミュージアム展示の新たな方向性

ミュージアムはヨーロッパで始まり、日本には、明治政府による国造りの一環として取り入れられた。現代のヨーロッパでは、民族、移民、差別、個人など身近なテーマを取り上げ、市民参加や情報公開も積極的に行われている。本章では、ドイツ、イギリス、ベルギーにおけるミュージアムの展示から何が見えるか検証する。

【キーワード】

負の遺産、ナチス、日常性、個人、移民、偏見、ヨーロッパ民俗学、市民参加、情報公開

執筆担当講師名：高橋 貴(愛知大学名誉教授)

放送担当講師名：稲村 哲也(放送大学特任教授)

高橋 貴(愛知大学名誉教授)

第14回 アフリカの博物館
—南アフリカの野外博物館を中心に

ともすれば展示される側として見られがちなアフリカで、どのような展示が主体的に展開されているのだろうか。本章では、主に南アフリカのンデベレ民族のカルチュラル・ビレッジを取り上げ、ナショナル・アイデンティティ、観光など、展示における今日的な問題について考察する。

【キーワード】

植民地、独立、ナショナル・アイデンティティ、国立博物館、ンデベレ民族、カルチュラル・ヴィレッジ、観光、アフリカ美術、作者名

執筆担当講師名：亀井 哲也(中京大学教授)

放送担当講師名：稲村 哲也(放送大学特任教授)

亀井 哲也(中京大学教授)

第15回 アジアの博物館
—インドネシアとモンゴルの博物館を中心に

本章では、まずインドネシア国立博物館を取り上げ、植民地からの独立と博物館展示の関係について学ぶ。ついで、モンゴルの国立博物館と極西部のカザフ民族居住地区のバヤンウルギー博物館を取りあげ、社会主義下のマイノリティと博物館展示、民主化・市場経済化による博物館展示の大きな変化などについて考える。

【キーワード】

植民地、国民統合、社会主義、革命のイデオロギー、民主化と博物館、チンギス・ハーン、マイノリティ、チベット仏教、イスラーム

執筆担当講師名：稲村 哲也(放送大学特任教授)

放送担当講師名：稲村 哲也(放送大学特任教授)

シラバス参照

博物館資料保存論('19)

Preservation of Museum Collections ('19)

主任講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)、本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)

【講義概要】

博物館資料である「もの」の保存について、その考え方を理解し、知識を学び、技術に触れる。そして、「もの」の保存は、材質や製作技法など資料の特徴を捉え、伝えてきた人や時代の判断を知り、「もの」に適した環境を整え、必要に応じて繕うことにより成り立つことを理解する。また、多様な博物館の多様な資料保存に関する具体的事例を参照し、その意義や方法について包括的に学ぶ。さらに、防災・危機管理、被災後の対応、伝統の保全、環境の保全などのような、地域との連携による資料保存についても、事例を通して理解し、これからの資料保存のあり方について考える。

【授業の目標】

博物館学芸員にとって重要な、資料保存に関する基本的な考え方や基礎的な知識を修学するとともに、専門家との連携、学芸業務以外の多様な部門との連携について学ぶ。また、事例を通じて、多様な博物館資料とその保存の特徴について広く知り、とりわけ、地域との関わりにおける資料保存の意義や方法について理解する。

【履修上の留意点】

※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

各回のテーマと授業内容

第1回 博物館資料保存論の導入

博物館の活動の根幹をなす資料保存の意義と基本的な考え方について理解し、文化財保護の法的基盤の変遷と、多様な文化財と博物館資料について踏まえたうえで、資料に影響を与える因子を整理し、それぞれの管理の方法や専門家との連携について学ぶ。また、資料の利用とのバランス、地域と連携した資料保存のあり方、資料保存修復過程の公開などについても理解する。

【キーワード】

博物館資料、文化財、保存、修復、環境、点検、調査、研究、公開、危機、管理項目、影響因子、IPM(総合的有害生物管理)

執筆担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)
本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)
放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)
本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)

第2回 博物館資料の保存環境

博物館資料の保存環境について、その管理方法を学ぶ。収蔵庫や展示室あるいは輸送中等において、温湿度、光、空気質、生物等が資料にどのような影響を与えるかを理解し、その把握と対応を考える。九州国立博物館、国立民族学博物館、宮崎県総合博物館の諸活動を通して保存環境の把握方法等を確認する。

【キーワード】

保存環境、環境管理、温湿度、光、空気質、生物

執筆担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)
放送担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)

第3回 自然史系博物館の資料保存

国立科学博物館など自然史系博物館において、動物標本、植物標本などの収蔵・展示資料を保存するために把握・考慮すべき諸条件について、具体的な実践事例を通して理解する。

【キーワード】

自然史系博物館、動物標本、植物標本、化石標本、データベース、保存科学

執筆担当講師名: 真鍋 真(国立科学博物館標本資料センター長)
放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)
真鍋 真(国立科学博物館標本資料センター長)

第4回 人文系博物館の資料保存

人文系博物館の資料保存について、資料の取り扱い、収納・収蔵、調査・研究、展示・公開、移動・梱包・輸送、修理・修復等の諸活動の留意点を学ぶ。九州国立博物館、東京国立博物館、熊本市現代美術館、田川市石炭・歴史博物館の取組みを通して理解する。

【キーワード】

人文系資料、収納・収蔵、調査・研究、展示・公開、移動・梱包・輸送、修理・修復

メディア	テレビ
放送時間	2020年度[第2学期](月曜) 15:45~16:30
単位認定試験日/時間	2021/01/24 4時限 (13:15~14:05)
学部・院	教養学部
科目区分	('16カリ) コース科目 専門科目 人間と文化
科目コード	1555065
ナンバリング	310
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2019年度2学期(78.7点) 2019年度1学期(76.9点)
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

執筆担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)
 放送担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)

第5回 野外博物館と建築物資料の復元・修復・保存

極めて複合的である建築物資料を中心に、多様な野外博物館の事例をとりあげ、その復元、修復、保存の意義や特徴について考える。「現地保存型野外博物館」として、アイヌ民族が集住する北海道の平取町二風谷地域、及び江戸時代の本丸御殿を再現した佐賀城本丸歴史館をとりあげ、「収集展示型野外博物館」として博物館明治村をとりあげる。

【キーワード】

野外博物館、建築物資料、現地保存型、収集展示型、平取町二風谷、エコミュージアム

執筆担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)
 放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

第6回 考古遺跡・史跡と博物館における資料保存

大分県の川辺・高森古墳群に「風土記の丘」事業によって整備された「宇佐風土記の丘」と大分県立歴史博物館、また、開発に伴う事前調査の結果を踏まえて保存、復原、展示された、佐賀県の吉野ヶ里歴史公園をとりあげ、考古遺跡・史跡等の保存や活用の実態を理解し、また、それがどのような歴史的経緯と文化政策によって展開してきたかを学ぶ。

【キーワード】

遺跡、史跡、風土記の丘、古墳、弥生、吉野ヶ里、覆屋

執筆担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)
 放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

第7回 伝統的保存法

博物館資料の多くを占める日本の美術工芸品は、この国の風土で育まれた伝統的保存法のサイクル「扱い・収納・曝涼・修理」により奈良時代から現代まで続いていることを、曝涼・曝書の歴史を通して学び、伝世の手法についても考える。宮内庁書陵部図書寮文庫の機械空調に頼らず自然換気で管理する取り組みを紹介する。

【キーワード】

取り扱い、風土、曝涼・曝書、収納、修理、伝統的保存法

執筆担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)
 放送担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)
 ゲスト: 青木 豊(國學院大學教授)

第8回 正倉院宝物の保存

「もの」の保存の原点である正倉院宝物の保存のあり方について、1200年以上にわたる正倉院の宝庫や宝物の修理や曝涼の記録からわかる危機管理の歴史を通して説明する。また明治期から本格的に行われてきた定期的な曝涼・点検と修理・模造製作及び現在の基本的な考え方と取り組みについて紹介する。

【キーワード】

正倉院、宝物、曝涼、点検、修理、模造

執筆担当講師名: 西川 明彦(宮内庁正倉院事務所長)
 放送担当講師名: 西川 明彦(宮内庁正倉院事務所長)

第9回 文化財の保存修理と博物館

文化財(美術工芸品)の保存修理は、近世まで民間で培われた伝統技術を基に近代的な理念で発展してきたが、近代日本の博物館の成立や機能と密接な関わりを持つ。こうした歴史を踏まえ、九州国立博物館文化財保存修復施設の取り組み及び宮内庁三の丸尚蔵館の修理事業の成果を通して文化財保存修理の意義を考える。

【キーワード】

文化財、美術工芸品、保存修理

執筆担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)
 放送担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)

第10回 博物館のIPM

博物館等の燻蒸に使われていた臭化メチルが2004年末に全廃されたことを受け博物館の虫菌害対策として導入された「総合的有害生物管理(IPM)」の考え方を理解し、その進め方を考える。九州国立博物館、国立民族学博物館、宮崎県総合博物館、熊本市現代美術館の取り組みを紹介する。

【キーワード】

虫菌害対策、燻蒸、IPM、臭化メチル全廃、保存環境

執筆担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)
 放送担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)
 ゲスト: 三浦 定俊(文化財虫菌害研究所理事)

第11回 博物館の防災・減災

地震災害は、日頃の備えが被害の軽減に反映されるので、その対策を学ぶ。来館者とスタッフの人的減災と博物館資料の減災のために日頃から実践的に備える愛知県美術館の避難訓練の事例を紹介し、日常の危機管理の大切さを伝える。

【キーワード】

地震対策、防災・減災、避難訓練、危機管理

執筆担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)

放送担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)

第12回 大規模自然災害と博物館

大規模自然災害が発生した時、博物館は何かができるか。熊本地震では、発災後、自館の被災対応、他の被災館への支援に加えて、地域の被災文化財救出等に地域の博物館が取り組んだ。また早期の再開館により心の避難所となった熊本市現代美術館の事例を通して博物館の役割を考える。

【キーワード】

大規模自然災害、地震、被災文化財レスキュー、心の避難所

執筆担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)

放送担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)

第13回 地域産業の保全と新たな価値の創造

資料保存の観点からも、博物館の地域との交流・連携・展開は重要である。地域の「伝統」の一部としての地場産業の保全から新たな「文化資源」が生成したユニークな事例として群馬県藤岡市の瓦産業と博物館をとりあげ、地域博物館の意義とあり方について考える。

【キーワード】

第三世代の博物館、古墳群、埴輪、瓦、達磨窯、鬼瓦、瓦・造形会、地場産業の継承、新たな芸術文化

執筆担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

第14回 環境保全と博物館の社会的役割

琵琶湖博物館の開館前から開館直後の方針やねらいを事例としてとりあげ、環境保全の拠点の一つとしての博物館の建設・運営と社会的役割について紹介し、その意義や今後の課題を検討する。また、環境保全を考える施設建設と運営について論じ、地域に根差した第3世代の博物館の方向性について問題提起を行う。

【キーワード】

琵琶湖、湖と人間、フィールドへの誘い、参加型博物館、自分化、交流と対話の場

執筆担当講師名: 嘉田 由紀子(前滋賀県知事、元環境社会学会会長)

放送担当講師名: 稲村 哲也(放送大学特任教授)

嘉田 由紀子(前滋賀県知事、元環境社会学会会長)

第15回 文化財保護と博物館資料保存の役割

国の文化財保護の拠点である従来型の博物館である九州国立博物館における市民参加型の資料保存活動と、地域の文化遺産を地域住民自らが資料保存するエコミュージアムとしての「太宰府市民遺産」活動、この二つが同じ地域内で取り組まれている事例を通して、文化財保護と博物館資料保存の役割を考える。

【キーワード】

市民参加型の資料保存、太宰府市民遺産、エコミュージアム

執筆担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)

放送担当講師名: 本田 光子(放送大学客員教授、九州国立博物館名誉館員)

ゲスト: 森 弘子(太宰府市景観・市民遺産会議議長)

戻る

シラバス参照

博物館経営論（'19）

Museum Management（'19）

主任講師名：稲村 哲也（放送大学特任教授）、佐々木 亨（北海道大学大学院教授）

【講義概要】

博物館は、コレクションや建物、学芸員など職員が存在するだけでは成り立たない。来館者が展示などを体験し、満足して帰り、その後リピートしたり、家族に来館を勧めたりする行動につながる事が大切である。さらに、博物館に足を運ばない地域住民に、その存在意義を知ってもらふことはもっと重要である。そのために、博物館経営は必須の概念である。ここでは、博物館経営に欠かせない組織や人材、経営手法・形態、連携などについて学ぶ。

【授業の目標】

博物館の管理・運営について体系的に理解し、「博物館経営」という枠組みの中で博物館を捉えることができるようになる。併せて、学芸員として博物館経営を実践する際の基礎的な能力を養う。

【履修上の留意点】

学芸員資格取得を目指す人は、「博物館経営論」を履修する前に「博物館概論」を履修することが望ましい。

※本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

各回のテーマと授業内容

第1回 はじめに：博物館経営とは

一般的な組織における経営とは、どういった活動や行為であるのかを概観した上で、我が国における博物館経営の定義とその領域を説明する。併せて、博物館経営における「使命」「経営資源」「ステークホルダー」について説明し、その特性について考察する。最後に、博物館を取り巻く今日的な状況を概観する。

【キーワード】

マネージメント、ドロッカー、使命、経営資源、ステークホルダー、ユネスコ勧告、とびらプロジェクト

執筆担当講師名：佐々木 亨（北海道大学大学院教授）

放送担当講師名：佐々木 亨（北海道大学大学院教授）

ゲスト：伊藤 達矢（東京藝術大学特任准教授）

第2回 博物館をめぐる人々と社会

博物館は、来館者だけでなく、いつもは利用しない地域住民や納税者にとっても何らかの価値をもたらす存在である。ここでは、博物館のステークホルダー（利害関係者）について具体的な事例から見ていく。また、企業のステークホルダーについても説明する。その上で、博物館の手段的価値を考察する。

【キーワード】

ステークホルダー、年報、CSR、手段的価値、外部性、三重県総合博物館、大阪市立自然史博物館

執筆担当講師名：佐々木 亨（北海道大学大学院教授）

放送担当講師名：佐々木 亨（北海道大学大学院教授）

ゲスト：佐久間 大輔（大阪市立自然史博物館学芸員）

第3回 博物館の組織と人材、行財政

博物館の組織と人材及び行財政について説明する。博物館のような非営利組織の目的は事業そのものであるが、大勢を占める営利企業と同様な経営視点を求められる場合も少なくない。経営に用いられる用語や考え方、日本の組織の利点や課題、日本の博物館組織の特徴など、組織や人材、行財政が目的を達成するための手段であるという視点から説明する。

【キーワード】

組織、学芸員、資源、意思決定、目的と手段

執筆担当講師名：亀井 修（独立行政法人国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長）

放送担当講師名：亀井 修（独立行政法人国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長）

第4回 博物館の経営①：国立の博物館

博物館の活動を貨幣量によって表示する財務諸表によって、その経営状況を知ることができる。ここでは、国立科学博物館と（独立行政法人）国立美術館（美術館5館）をとりあげ、その財務諸表の数値にもとづいて、独立行政法人化以降の国立の博物館の財政状態について理解を深める。

【キーワード】

財務諸表、独立行政法人、事業報告書、国立科学博物館、国立美術館

執筆担当講師名：小津 稚加子（九州大学准教授）

メディア	ラジオ
放送時間	2020年度【第2学期】（水曜） 06:45～07:30
単位認定試験日／時間	2021/01/30 6時限 （15:35～16:25）
学部・院	教養学部
科目区分	（'16カリ） コース科目 専門科目 人間と文化
科目コード	1555073
ナンバリング	320
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2019年度2学期（75.9点） 2019年度1学期（74点）
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

放送担当講師名:小津 稚加子(九州大学准教授)
稲村 哲也(放送大学特任教授)

第5回 博物館の経営②: 公立の博物館

地域における博物館の役割がますます重要になっている現在、公立博物館のマネジメントについて知ることは重要である。ここでは、まず公立博物館の変遷を踏まえた上で、指定管理者制度を取り入れて改革を進めてきた2つの博物館の現状をとりあげる。さらに、地域との連携を理念と実践において先駆的な滋賀県立琵琶湖博物館をとりあげ、今後の地域博物館のあり方について考える。

【キーワード】

地域博物館、第三世代、指定管理者制度、公益法人、NPO、改革、江戸東京博物館、野田市郷土博物館、琵琶湖博物館

執筆担当講師名:稲村 哲也(放送大学特任教授)
放送担当講師名:稲村 哲也(放送大学特任教授)
ゲスト:嘉田 由紀子(前滋賀県知事)

第6回 博物館の経営③: 民間の博物館

例として、筆者がその設立に携わった野外民族博物館リトルワールドと、同じ企業が経営に参与する博物館明治村を取りあげる。いずれも野外博物館であるが、その特色として、学術の基礎に裏づけされた娯楽的要素、多彩な体験型の展示、多様な収益などがあげられる。国公立の博物館に企業的経営要素が求められる現状において、参考になる点が多い。コラムでは、ペルーの遺跡博物館の地域住民による博物館運営の形態についてとりあげる。

【キーワード】

野外民族博物館リトルワールド、博物館明治村、公益財団法人、CSR、ペルー、クントウル・ワシ博物館

執筆担当講師名:稲村 哲也(放送大学特任教授)
放送担当講師名:稲村 哲也(放送大学特任教授)
ゲスト:大貫 良夫(野外民族博物館リトルワールド館長)

第7回 博物館の経営④: 企業博物館

公立博物館が大多数を占める日本において「企業博物館」は特異な存在であると言える。企業博物館が公立博物館とどのような点で異なってくるのかを主題に、企業博物館の定義、企業が博物館を設立する経営学の理論的背景としてのCSR、企業博物館の分類について解説する。

【キーワード】

CSR、企業社会貢献、戦略的CSR、企業博物館の分類(事業-機能マトリックス)

執筆担当講師名:平井 宏典(和光大学准教授)
放送担当講師名:平井 宏典(和光大学准教授)
ゲスト:古田 ゆかり(サイエン斯拉イター)

第8回 博物館の経営手法①: マーケティングと利用者調査の手法

マーケティングの定義やその変遷を紹介し、実際の博物館経営の場面でどのように活用されているかを具体的にみていく。併せて、近年言われているマーケティングの限界と新たな展開について考える。最後に、博物館利用者を理解するための調査方法を紹介する。

【キーワード】

コトラー、ニーズ、阿修羅展、鑑賞者開発、東京国立博物館

執筆担当講師名:佐々木 亨(北海道大学大学院教授)
放送担当講師名:佐々木 亨(北海道大学大学院教授)
ゲスト:関谷 泰弘(独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館専門職員)

第9回 博物館の経営手法②: 使命と評価

評価導入の背景や評価の定義を紹介した上で、日本における博物館評価導入の現状と使命の重要性を説明する。その上で、最も多く用いられている「業績測定型評価」の具体的事例を見ていく。それとともに、それ以外の多様な評価手法を紹介する。

【キーワード】

プログラム、館主体の評価、設置者評価、使命、業績測定型評価、静岡県立美術館、三重県総合博物館

執筆担当講師名:佐々木 亨(北海道大学大学院教授)
放送担当講師名:佐々木 亨(北海道大学大学院教授)
ゲスト:源 由理子(明治大学専門職大学院教授)

第10回 博物館における連携①: 他館・他機関・学協会

博物館と他館・他機関・学協会といった組織間の連携について説明する。連携は同じ目的を持つ者が物事を一緒にすることである。各者のメリットを最大化する行動が一致しないことや「連携疲れ」や「連携の目的は連携」といった言葉を耳にすることもある。効果が明確でない連携は行なってはならない。

【キーワード】

連携、連携組織、戦略的-方法(戦術)的、分野的-総合的

執筆担当講師名:亀井 修(独立行政法人国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長)
放送担当講師名:亀井 修(独立行政法人国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長)

第11回 博物館における連携②: 市民・地域社会

今日、地域社会の中で博物館は新たな役割を担うことが期待されている。その現代的な課題に取り組むに

あたり、中心的な課題と言えるのが博物館連携である。ここでは、市民を中心として地域社会に広がっていく連携のあり方を経営学の所論を援用しながら、その意義・相手・方法論について解説する。

【キーワード】

ステークホルダー、戦略的提携、ネットワーク、共創戦略

執筆担当講師名: 平井 宏典(和光大学准教授)

放送担当講師名: 平井 宏典(和光大学准教授)

ゲスト: 奥本 素子(北海道大学高等教育推進機構准教授)

第12回 公立博物館の経営形態: 直営・指定管理者・地方独立行政法人

日本の公立博物館は、直営による経営のほか、指定管理者、地方独立行政法人による経営が可能である。公立博物館にとって経営形態が重要な理由を説明したのち、経営形態の変遷を概観する。その上で、指定管理者制度の現状と課題を整理し、新しく登場した地方独立行政法人による経営の特徴を考察する。

【キーワード】

指定管理者制度、地方独立行政法人、人材確保、投資、機動力、柔軟性、自主性、大阪市

執筆担当講師名: 佐々木 亨(北海道大学大学院教授)

放送担当講師名: 佐々木 亨(北海道大学大学院教授)

ゲスト: 高井 建司(大阪市経済戦略局文化部経営形態担当課長)

第13回 博物館における危機管理・倫理規程

博物館は、人類共有の財産といえる貴重な資料を取り扱うという機関的性質上、その経営には常に危機に向き合う姿勢と高い倫理観を求められる。この危機管理と倫理について、それぞれの基本を踏まえた上で、危機に対するアプローチと倫理規定を中心に説明する。

【キーワード】

危機管理、危機管理アプローチ、経営倫理、倫理規程、博物館の原則

執筆担当講師名: 平井 宏典(和光大学准教授)

放送担当講師名: 平井 宏典(和光大学准教授)

ゲスト: 加藤 幸治(東北学院大学教授)

第14回 我が国の文化政策と地方自治体の文化財団

地方自治体には、博物館を含めたさまざまな文化施設がある。文化施設の運営に深く関わる文化政策の歴史を紹介した上で、地方自治体が出資する文化財団と文化施設の関係、および文化財団と地方自治体の文化政策のあり方を考える。

【キーワード】

文化財団、文化政策、文化芸術、文化芸術基本法、札幌市

執筆担当講師名: 佐々木 亨(北海道大学大学院教授)

放送担当講師名: 佐々木 亨(北海道大学大学院教授)

ゲスト: 太下 義之(三菱UFJリサーチ&コンサルティング主席研究員)

第15回 海外の博物館経営

博物館の社会的機能や存在感の維持や向上に対する海外の博物館経営について事例から説明する。同じ活動を続けることは変化する社会での存在感の希薄化を意味する。変化に対応する博物館の新しい役割を示し続けることは切実な経営課題である。

【キーワード】

グローバル化、資源の確保、アントロポシオン、赤の女王仮説、コンテストド・ヒストリーズ

執筆担当講師名: 亀井 修(独立行政法人国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長)

放送担当講師名: 亀井 修(独立行政法人国立科学博物館産業技術史資料情報センター副センター長)

戻る